

季節の



葉ボタン



南天



坂の橘林

実景

撮影 武市通治

新春



御来光



初日の出 (高見山)



三峰山へ登る (台高)



高見山へ登る (台高)



三峰山から倶利伽羅山方面を望む
●写真提供 山崎日本鉄道社



高見山山頂にて (台高)



靈仙山西南尾根 (鈴鹿)

池野 明



御在所岳中道の樹氷 (鈴鹿)

三輪 裕



靈仙山西南尾根 (鈴鹿)

池野 明



御在所岳より鐘足根を望む (鈴鹿)

三輪 裕

●目次

表紙:松田敏男「研黄岳中腹より嶺南と赤岳」(八ヶ岳)

●作者プロフィール ●1943年、京都生まれ、京都府立芸術大学卒。(1977年より)山岳作家、山岳部の指導者として、(京都府立芸術大、西アルプス山小屋、東京キョウライ一宮、他)山岳部と登山に携わり代表、日本山岳会会員、一等三脚山研究委員会、本誌編・刊の委員会

別冊 新伴 関西の山
94年1・2月号 14号

●グラビア	季節の風景(新春)	武市 謙治	2
●山の本	主役の座を奪われた一等三角点 マムシを食べた	内田 嘉弘 慶佐次盛一 平野 耕也	12 11 10
●河津	河津山	岩田喜久子	14
●当麻山	日本霊山紀行12 河津山	山形 孝一	16
●日向山	日向山	松野 敏男	19
●白石山と真鍋山の神一筆点		松田 敏男	24
●甘南備山		内田 嘉弘	28
●鬼鶴		私幸	32
●エリア	熊野古道を歩く一はじめ	中村 敏文	38
●別研究	①白神社から白峰越え ②作の峠から栗坂 ③得生寺から栗坂 ④井関から鹿ヶ瀬峠越え 近世の伊勢街道ハイク① 伊勢本街道一橋原町から奥三峠へ	46 44 42 40	48
●京都北山やぶ道き橋快山行記(13)		京都北山グループ	35
●直谷廻行・二ノ瀬ユリ		松永 恵一 小山ひろし	50
●文学歴史探訪ハイク⑩		福井 正身 岩野 明	56 58
●コース	①入道ヶ岳 ②獅子ヶ岳	村田 智俊	60 62
●ガイド	③神向山・水無山 ④明神平から須岳	二名 良日 松川正次郎 松下 淳 小泉 賢純	64 54 27 22
●アウトドア・ライフ入門⑩「カンジキ作り」			
●野の花摘み(1)			
●たのしい山歩き・尾瀬雑考⑩「徳林林道」			
●通説	山岳夜話(第1回) 嵐山春色		
●拾録ハイキングガイド	新ハイ関西山行計画と報告		
●さらさら	バス時刻(比良)		
●サービスチェーン	編集後記・広告案内		

巻頭言

新しい年になりました。また新たな気持ちでこの一年間、元気でハイキングの情報を発信していきたいと思っています。本年も「新ハイキング別冊関西の山」をどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

この雑誌はハイキングの本ですから、気取りのない、素朴な本にしたいと思っています。山歩きは時流にのらない地味な遊びです。大人の楽しみによく顔出しする最近の若い人にも、これだけはグサイと思われているのか、あまりふり向いてもらえません。まさに遊びの中の3Kを地味でいく代表のように思われているようです。

しかし、この山遊び、覚えたが最後、何か中毒になったようで、ちよつとやそつとでは止められない魅力的な趣味でもあります。私も若かりし頃はいろいろと手を染めてきましたが、この遊びは最高です。

ハイキングの良さは、そして利便をその場にならせてくれるのは、自然です。四季の変化を感じさせてくれる新鮮な自然があればこそです。気取りのない、素朴な近くの自然と対峙しながら今年も元気に歩きましょう。

新ハイキング別冊(代表) 村田智俊

自然を歩く仲間です。

決算バーゲン開催

1/16出より

お買得品が店内に盛りだくさん!!

(冬山の山行をより快適に)

足踏でひと汗かいて、休憩の際に背中や汗が蒸発に冷えて寒いや寒い経験が一度はあると思います。冬山の山行として最も重要なことは身体を冷やさないこと。ここに紹介するアンダーウェアは、汗の吸収発散性と通気性にすぐれた素材を使用した、身体を冷やさないOD BOXおすすめのアンダーウェアです。



※お電話でお申し込みの際はポイントをお知らせください。この日よりお買得品が並び、お買得品をお見せしております。
ご来店の際、新ハイキングクラブ・メンバーズカードをご提示の方には、**OD BOXメンバーズ価格**でご提供。

※この他、店内にはアウトレット品も多数あり、冬山の山行に最適なアイテムを揃えています。

自然で暮らす。

遊 衣 自然
登 食 住
CAMP 住

OD BOX

アウトドアライフのトータルショップ

OD BOXのコンセプトは「自然と遊ぶ素朴な生活」。自分の好きなことで自然とふれあう。「登山」の楽しさを満喫して、もっと自然と仲良くしたい。OD BOXはそんなハートを待たせ、一年中アウトドアのお店です。

※お買得品もお求めになります。お買得品が揃っています。お買得品が揃っています。

- フロアが変更してさらに見やすくなりました。
- 4F サイクル ランニング用品
- 3F キャンプ・登山用品 カヌー
- 2F 登山・アウトドア ウェア
- 1F バック・登山靴 アウトドア雑貨
- B1 ダイビング用品 テニス

OD BOX 大塚店

〒562 大塚市中央区西心斎橋2-10-31
TEL 06(212)6666
受付時間 10:30~19:30
日・夜間 10:30~17:00



山の木

内田 嘉弘

最初に読んだ山の本は「処女峰 アンナプルナ」です。この頃私は山登りをまだ始めておりませんでした。母校（高校）の図書管理のアルバイトをしていた頃、書架からこの本を見つげ一晩で読んでしまいました。登山のことは全く知りませんでしたが、読後の興奮状態はしばらく続いています。人類最初の8000m級登山、過酷な自然との戦い、頂上を征服した後、遭難状態からの生還というドラマは、多岐な青年期の私の脳裏に焼きついてしまいました。

私が山登りを始めたのは、日本隊がマナスル初登頂を果たした次の年からです。その頃、「マナスル登頂」稲垣恒彦を讀み終え、次にそのマナスル第二次登頂者であった加藤寛一郎著「山に訴われた

思」を讀みました。それには一人の男が山の魅力にとり憑かれ、マナスルまで突っ込んで行く過程、山に対する真向な姿に魅せられるものがありました。

山に夢中になってきた頃に読んだジャン・コクトの「アルピニストの心」は、山に対して正面から取り組む姿勢を短い文から感じとり、私もこのように山に向かいたいものだと思つたものでした。

その後、私の山登りは京都北山から北アルプスにも興味を極くよくなり、岩登りもするようになつてきました。その頃読んだガス・トン・レピファ著「星と嵐」は、パイプルの本本になり、よく読者に置いてきました。また、山岳小説ではフリゾン・ロッシュ著「ザイルのトッポ」とその流石「山に遊ぶ」は、クライマーとして言つて行く過程を、自分自身とクワラセながら讀んだりしております。自分の目がヒマラヤへ向き始めた頃、「処女峰アンナプルナ」の隊員レイ・ラッシュナルの「若き日の

山行」(モーリス・エルゾグクの弟・ジェラルド・エルゾグクが書いたレイ・ラッシュナルの伝記)は心に残る本です。それに添削久弥著「ヒマラヤの高峰」(全五巻)岩波社)は、ヒマラヤ入門の必読書でした。ヒマラヤの初登頂ルートとその山の歴史が書かれていたにもかかわらず、徐々にヒマラヤが照輝し、次の巻が待ち遠しく、読まされるのが面白くなりました。そしてその中で、自分でも登攀可能な山を見つけたときは嬉しくてたまりませんでした。ヒマラヤ登頂記の中でラルフ・パーカー著「最後の白い山」のハフモッシュでの遭遇と雪壁との壮絶な戦いに敗れた青年二人の死は、ヒマラヤの恐ろしさと同時に、人間が極限状態に置かれた時の行動と友情が克明に描かれた。読んだ後は体がしびれた状態になり、強烈なショックを受けました。

岩登りの等級で第六級が最高であった時期に、ラインホルト・メスナー著「第七級」が出版された



随想 (山のエッセイ)

時は、上の世界が現れたと強く感じました。また、この本が出てから、彼とベーター・ハーベラーが三日間でヒドン・ピークを登ったニュースをラッパルピンジで聞いた時は驚きでした。この記録はメスナーの著書「林檎」の主題になっています。

私が理想とする登山家ヘルベルト・V・テューヒの「無名峰に響える風」は、西ネパールを踏破しながら三つの6000m級峰と二つの5000m級峰を初登頂。その一年後に、彼は二人で8000m級峰チョー・オネーの初登頂に成功しています。この本の著者「ヘルベルト・V・テューヒ」と「星と嵐」の著者「ガス・トン・レピファ」は、共に私のあこがれの登山家です。これらの本以外にもワルテル・ボナツァイの「わが山々へ」と「大なる山の日々」、加藤寛一郎著「森林・草原・水河」も心に残っている本です。

また、平成年度になって読んだ山の本では「死のクレパス」です。

「最後の白い山」も強烈でしたが、こちらはバートナーがザイルを切断するというショックなテーマです。そこまで追い込まれた極限状態から生還した本人の著書だけに深く印象に残っています。

主役の座を奪われた

1等三角点

慶次 盛一

今年の3月、六甲山最高峰の氷軍酒蔵跡地が返還された。山頂のパラポナアンテナの撤去と整備を終えて、7月21日に一般に開放された。恐らく東西の冷戦終結の影であるだろうが、近畿在住の登山者とりわけ1等三角点の山を愛する者にとっては朗報だった。

早速8月1日に六甲山最高峰へ向かう。時々小雨に見舞われるというあいにくのお天気だったが、東のお宿山登山口から東お宿山に登り、土曜朝時、統行北山から石室殿に出て、ドライブウェイに

沿ったハイキングコースを歩くと、最高峰直下の一軒茶屋に着き、最高峰へ直上。

山頂一番は芝生を敷きつめた丘陵状で、遊歩道と自然と六甲山最高峰のモニメントの前に出る。「六甲山最高峰」のプレートをつけた方や、テンプル状の大きな銅影石の表面に三角点を彫りつけたプレートをはじめ、六甲山1等三角点と記して、三角点の解説と方位図まであるという立派なモニメントである。

さて、1等三角点はこのモニメントから2分ほど先にある。普通の三角点は崖表に突き出ているが、この三角点は芝生と平行に埋まっていて目立たない。おそろしく山頂整備の際にどういふことになったのだろう。お陰で遊歩道に刻まれた1等三角点の文字は強靭出来なかったが、六甲山最高峰の1等三角点に始めてタッチして、仲間達と共に山頂の老生に憩う。山頂の巨大アンテナは跡形もなく撤去、整備され、まるで遊園地



随想 (山のエッセイ)

に想うかのようなのどかな気分。同時に目撃物がなくなり、山頂の固定には迷うなあと意を。視界は霧で駄目、無数の赤トンボが飛び交い、あるいは芝生に羽を休めている。芝生のあちこちに登山者も憩い、まだまだこれから最高峰を自括して登って来る登山者もいる。

やはり誰でも、最高峰はいいんだなあと思つたが、そのうちおかしなことに気がついた。例のモニユメントの前で、「ここが最高峰だ」「一等三角点だ」と、囁くような声をあげてしきりにカメラのシャッターを切つてゐるのだが、本物の一等三角点の方には殆ど人が来ないのだ。

モニユメントの位置でも、三角点の位置でも山頂はフラットだから山頂にはわりはないのだが、三角点のあるピークでは、普通は三角点の位置をもつて私達は山頂とする。どうやら一般のハイカー達はあの立派なモニユメントを三角点と勘違いしているようだ。大

しないかぎり「遺和」といふこと。

私が発見しなければ、マムシは私達パーティーを見物してやり過ごし、何事もなく済んだのだらうが、私達のパーティーには二人の奇人がいるのである。即ちマムシ大好きという人案である。

早速その二人に報告、先頭の方を行く二人が、いそいそと戻ってきた。特に北山グループの出口遊次さんのマムシへの愛は異常なほど。いとも簡単にマムシを捕まえて、いとも簡単にマムシを食ふ。マムシかごに入れる。マムシかご？ 本当は魚を入れる網罟のひくのだが、この人いつでもリュックにそれを入れていた。

たいていは茶に持って帰ってマムシ酒にするのだが、その時は違つた。その夜は百少山山の家泊まった。その夜は百少山山の家泊まった。よく切れるナイフで首をちよん切る。いや正確に言ふと、

首を振つこの方を待つていたから胴体をちよん切ると言ふべきだ。

次にマムシの皮を剥いでしまふ。そして腹をさいて内臓を取り出し、肝をペロリと食べてしまつたのには驚いた。

野蠻な人などと誤解してはいけない。彼は山行のリーダーとして海千山千のハイカー達の面影をよくみる。モアあふれる紳士なのだ。

さて、観望会での昼食時、いよいよマムシの野外料理が始まる。先ほどのマムシを五等分し、枝に刺し、塩をふりかけ、二三分ほどコンロで焼いただらうか。白味の肉がこんがりとい色にあがっている。「二百五五人」と出口さん。

こんな珍味を食べる機会は一度とないだらう。ひるんでいる日まを添って一中頂く。

さて問題の味が、淡白の二語に尽きる。できればカラムシ醬油で食べたかつた!

前掲して立派なモニユメントを作

り、三角点の解説までしてくれたのだが、一般の人にはまだ十分理解されてないようだ。

本物の一等三角点はやつと米軍基地から設置されたというのに、モニユメントの方に主役の座を奪われ、肝心の一等三角点にはほとんど無関心という人が多かった。山頂整備の際にもつとモニユメントの配置方法を考えたり、三角点の正確な所在位置を明示するなどの配慮が欠けていると、残念に思う。

三角点はいわゆる基本測量の基準となるもので、地質学知にも役立つ。登山では現在位置を正確に知らせてくれる。兵庫山下には二〇〇〇以上の三角点があるが、一等三角点はずかぬで、その一つが六甲山最高峰の一等三角点である。しかも本点、最高峰に訪れる機会がありましたら、ぜひ本物の一等三角点にも訪れて下さい。三角点といつても本隊には三角点ではなく、四角形で表向に十が刻まれて

いる。六甲山の一等三角点。明治時代に設置されて以来今日まで、長年の風雪に耐えて山頂で頑張りて来た。種をどで踏まずに、苦勞さんと、指をやさしく撫でて、労つてやつて下さい。

マムシを食べた

平野 耕也

いつだったか丹生牛原牛林上谷を中山神社から杉尾峠へ歩いていたらだつた。

その時は30人ほどのパーティーで、私はほとんど後ろの方を歩いてたが、ふつと道のすぐ右の石の上にマムシがとどろを巻いているのを発見した。

いったい先に行った連中は何を見ているのだらうと思われ近き。小さいうちは黒マムシだったので発見できなかったのだらうが、ここでマムシについて一言。こちらから攻撃したり、触つたり

マムシを食べたからと言つてきやあきやあ驚くことはないのだ。本意は、

富士山頂の白米の粒のみやげ物屋はちゃんどマムシの手物を完つていて、腹をさかれてはいるが、頭から尾まで一匹きれいにビニール袋に包まれて他のみやげ物といつしよに並べられている。

かたわらを修学旅行の中学生や高校生が取りすぎるが、当然女生徒も混じつていてそれを自にためたとこで、誰一人「ギョー」とか「ワァー」と騒ぎはしない。ただ腹を見に急ぐだけである。



黒岩水仙郷から

諭鶴羽山

岩田 喜久子

淡路

黒岩水仙郷



93年陽春号(第9号)に「近畿の名山100」の選定一覧がのっていた。諭鶴羽山は、岩田は幾つもの山に登りましたかとあつたが、意外に知らない山名が多い。読み方も、そのまま読むのか、訓読みか、音読みか分からない山名もある。近畿の山をあまり歩いていない事にあためて気がつく。しかし最後の100番目に「諭鶴羽山」があつて驚しかった。と言うのは、最近登ったばかりの山だったからだ。友人に言つても「そんな山どこにあるの?」と尋ねていたので、何だか懐かしい友人の名を見つけたような気がした。諭鶴羽山は自分達で計画したのではなく「貴方任せの登山」だったので、何案について行けば良かった。

1月31日は日本列島を低気圧が覆い尽くしたとかで、4月中旬のような暖気の日だった。朝8時10分、天保山、天保山、奥台のため、抽足駅を6時に発車する。約2時間かかるが、1時間半で、天保山乗船場に到着した。8時40分発の高速バスで瀬戸まで、約1時間半で瀬戸港。波も穏やかで、さすがに寒い。諭鶴羽山は淡路島の中で一番高い山とのこと。淡路島の中央部を高速道路が通じているが、私たちのバスは海沿いの道を行く。海が陽光にキラキラ輝いて、穏やかな伸びやかな気分にしてくれる。瀬戸から40分かかって黒岩に着いた。

淡路島の水仙はちよと今が見える。全山見渡すかぎり水仙で覆いつくされている。水仙の競作とした香を、これほど濃にしめじみと溶びたことにはなかつた。白梅も水仙に負けじと咲き誇っている。山上から見ると瀬戸の海が広がっている。昼食を済ませ水仙郷をあとにする。

海沿いに20分徒歩、登山口に向かって海岸線と別れる。急なアスファルトの坂を上が

り、登山口に着く。ここに来るだけでもう汗がでた。強い日差しを見上げて避暑になる。13時10分登り出す。急な登り、穏やかな登りが続く。

気がつくとも山の横木は「びしやん」「びさかき」が多いような気がする。前を後ろで「びしやん」「びさかき」と声にする。あまり高い樹木はないようだ。仏事や神事に使う樹木が多いように思われた。



諭鶴羽山より見た淡路の山々



506mに諭鶴羽神社がある。行でびんしより。納経後に御朱印を頂いて休憩する。諭鶴羽山の語源はどこからきたのか。正月に門松や鏡餅に「ゆずり葉」を使うが、ここにもあった。西国三十三番札所の一番和歌山の那智山より「ゆずり葉」の苗木をもってきて植樹したこと。昭和48年に植樹されたというが、それから約20年たつたが丈は余り高くない。葉もやや小ぶりだった。神仏に供える木と祝い事に使用する木の多い山なのかな、と思ふ。石上まであと約1kmある。

1番三尾山(506m)に到着 14時40分

瀬戸の海が、そして四国が見える。大きな汽船が沖合に行く。小さな漁船もささやかに姿を見せている。

瀬戸は瀬戸川に下り、瀬戸に出た。瀬戸港は17時30分の高速バスに乗る。風が出てきて船が揺れる。船の揺れに身を任せているうちに眠ってしまったらしい。19時10分天保山に着く。思わぬ好天気に恵まれて、充実した一日だった。(平成5年1月31日歩き)

穏やかな 冬口にさらめく 瀬戸の海
見上げる山麓 水仙郷

瀬戸と 花の香抱れる 瀬戸の

のどかな里村 瀬戸光景ゆる

暖冬を 忘れさせるか 暖かくて

山路行く人 日蔭で憩う

神仏に 捧げる木霊の 目立つ山

黒岩水仙郷のおむす 淡路の瀬戸

参考タイム 本文を参照

地形図 2万5千 諭鶴羽山・広田

5方1由良

紅葉のシーズンに登る

雪嶽山

韓国の山で日本によく知られているのは、濟州島の漢拿山と雪嶽山である。漢拿山は5月のツツジが見事で、雪嶽山は秋の紅葉が素晴らしいので有名である。

そこで紅葉のシーズンの雪嶽山（1770m）に登るために、平成4年10月、毎日新聞社が募集していたツアーに参加して現地を訪れた。

大阪から大韓航空機で1時間30分、韓国の首都ソウルに到着する。外国と違って大阪から札幌や油路に行くより早い。

待っていたバスで登山口の五色温泉に向かう。今回の旅は通常の観光旅行ではないので、首都ソウルは通り過ぎるだけ。ソウルの街は日本と同じ、車の大渋滞、ノロノロ運転の迎

山形歳之

韓国

車で来ついてもイライラする。やっと道路を渡けると、今度は待つてましたとばかりにバスは猛烈なスピードで走り出す。曲がりくねった狭い道を時速100kmも出していた。身を硬くして準備がしがつく。以前日本で旅行していた神風タクシーが、ここ韓国に生きているとは思わなかった。

農村の景色は全く日本と変わりなく、山んぼは黄色く染まり取り入れも間近。山んぼはほとんど山に入っていく、やがて登り始めた時は凍凍樹の風景台。バスの外に出ると暖風が肌を刺す。ここはすでに10000mの高さである。レストランや売店、お土産屋が店を並べている。

雪嶽山のような風景台なのだが、今日は霧に

本語で呼ばれていた。

食後、みやげもの屋を覗いてみる。推定にスルス、山菜らしい干物、リンゴや梨等は日本と同じ位の値段であった。オンドルのきいた部屋は暖かすぎて堪え難い。十間なので体が少し揺らかった。

翌朝、まだ暗い4時に起きて、昨夜の食堂で朝食をとり、お弁当に巻きすしを買い、水筒にお湯をいれる。とういうわけか、韓国では一般にお茶が出ない。

温泉街の入り口が登山口になっていて、入



雪嶽山 大青峰山頂（1等三角点）



包まれて何も見ることが出来ない。バスは暖房を入れて五色温泉に下って行く。ソウルではクーラーを入れていたのに、半日でこれだけ凍う。

五色温泉は雪嶽山の登山基地、お寺の大半は登山者で、外国の観光客の姿などまったく見ない。私達は韓国式の旅館に泊まる。部屋の床は十間になっていて、オンドル（床を暖める韓国式の暖房）が入っているのでポカポ

山料が必要らしいが、早期のため事務所が閉まっている。車や徒歩でどこからともなく登山者が集まってくる。

「雪嶽山 大青峰入口」と石に刻まれた所から、ライトを手にして登山道に入る。道は一気に林の中を登っている。鼻く踏まれているが、石がゴロゴロして歩いて歩きにくい。道の分岐には標識が立っているが、ハングル文字ばかりで全く読むことが出来ない。途中二か所ばかりテント掛けの売店があり、缶ジュースなどを売っていた。

温泉池を過ぎると、バラバラと下山する人の姿を見ることが出来る。山小屋に泊まった人達だ。やがて急登が終わると、霧の中からはんやりと半分石に囲まれた山小屋が姿を現した。頂上は小屋から2分の所であった。

昔の積り重なった頂上はあまり広くなく、どこから来たのか40〜50人の人達で一杯だ。ハングルの刻まれた石碑が二つ立り、その間に日本と全く同じような三角点があった。文字はハングルだが1の字が見える。ガイドは「二等と書かれている」と話していた。標識は良く見えたが、今日は霧のため何も見えない。寒いので休憩もそこそこ、主観大青峰を乗り越して後山を中青峰から小青峰に至る。ここまで来た頃には霧も晴れ世界が広がる。



千仏河溪谷の紅葉

る。昔も下集まった大樹林の中に石灰岩の岩峰が林立している。それがあの切れ間から射し込む太陽の光に照り輝き、目事な景色である。長く延びる山稜の先には、日本海が蒼々と近くに光っていた。

少し寒いが景観を羨しみながら食事をする。ここにもテント掛けの売店があり、メダルに登山記念のネームを刻んでいた。毎シーズン等の値段は日本と同じく、町では5000W(ウォン)が、上に行くに従って7500W、10000Wとなり頂上では15000Wになっていった。ちなみに現在一歩もW位である。

ここから千仏河溪谷への急下降が始まる。やせ尻根で石の積み重なる要路が一両線に延びて、そこに滑るように登山者が点々とつがっている。健康靴きと言われている所だ。長い長い急坂を下りきると、やっと千仏河溪谷の入り口に着く。ここにはキャンプ場や売店があり、大勢の人々が一息入れている。我々もここで大休止。登山者の中には摩訶米軍の兵士らしい姿も見かける。

千仏河溪谷の両岸は見上げるばかりの岩壁が迫り、深く狭い渓谷を前流がほとほと流れている。もちろん流な多つけられる余地など無く、歩道は鉄の橋と階段ばかり。その岩壁を包むように真っ赤に紅葉した木々が、白い岩と青い空、そして激流を上げる滝に映えて見事な景観をつくり出していた。紅葉の登山道と言われるゆえんを納得させられた。日本でも紅葉の名所は沢山あり、私もいろいろなお店を見ているが、この渓谷のように素晴らしい景色が長く続くのは始めてで、遙々と来た甲斐があったと感ずるものだ。

谷はどこまでもどこまでも続く、人々は一列になつて橋を渡り下っていく。一体どこからこんなにも沢山の人が山に登ったのかと思わ

れる程である。いつしか谷も広がり穏やかになると、密林池れやアベックの姿も見かけて、今回の山行もいよいよ終わりを告げる。

下り立った遊歩道は一般の観光客で大混雑。龍谷城へのロープウェイは3時間待ちとか。広場の出陣には食べ物屋や土産物屋が軒を連ね、大阪の心斎橋並みの人海みである。駐車場でもマイカーとバスがびしり詰まらって、迎えの車を換すのも一難動であった。今、龍谷河はシーズン真っ盛りである。

しかし龍谷山の真髄は登山者しか味わうことが出来ないものである。龍谷山は確かに一見のいや一登りの価値ある山であった。

翌日、日本海側を通過して日留温泉に入浴する。ここは大会場があつて日本式と云うより昔に造られたのかも知れない。日本語で「安んい」と「マ」市場のおばさんに引かれて、松茸とスルメをお土産にする。

その後、私たちのツアーは慶州の南山に登り摩訶米を見た後、お寺や土壇公園を巡りして釜山の港から帰国した。

(平成4年10月9日歩く)

(ハコースタイル)

五色温泉(6時・8時開)雷取山・大岩峰(7時・7時開)五重湖

連載

日本霊山紀行 12

阿弥陀岳

2807m

浅野孝一

阿弥陀岳は八ヶ岳の一峰である。八ヶ岳は長野県と山梨県の県境にあり、諏訪・佐久郡の郡界南北に長大な山々を連ねている。八ヶ岳とはたたくさんの山が集まったとの総称と言われ、現在は、西岳・阿弥陀岳・赤岳・中岳・阿弥陀岳・横岳・摩訶米をこれに峰の松尾を加えている。山々は南北に一列に並んでいるが、中岳と阿弥陀岳は赤岳から西に延びる山稜に属する。

八ヶ岳の名称について「甲斐國志」は「峰摩訶米トシテ八峯ニ分ル、故ニ名トス」と記している。「日本山岳志」は単に八ヶ岳とのみの記述があり、「八ヶ岳」甲斐國北巨摩郡信濃國新井町南院久ノ郷ニ跡ル、北巨摩郡大泉村字天台ヨリ三里十八町、字西井出ヨリ三里

諏訪郡本郷村大字立波ヨリ三里ニシテ其山頂ニ達ス、標高九百七十六尺、この文章では八ヶ岳のどの山頂に達するのかわからない。しかし表記の数字を現代風に換算すると約2800m、根拠不明の赤岳の2890mに近い。なんとも複雑な行程によって八ヶ岳に登ることになる。

それ故か補遺に於て、小島島水がくわしく八ヶ岳登山道のことを記述している。そして八ヶ岳とは「今ハ普通赤岳・阿弥陀岳・横岳・西岳・横岳・横岳・横岳(別名横岳)・横岳・横岳(別名横岳)・横岳(別名横岳)・横岳(別名横岳)」と述べている。茅野市在住の安藤新著「阿弥陀岳八ヶ岳山岳通志」に「八ヶ岳登山道は江戸中期、下根木の作田行善により、寛政二年に行われた。

赤岳より見た阿弥陀岳



赤岳神社の甲斐として、現在下根木に建てられており、村人は神刀さまといつて、今でも信仰が盛んに行われている。早稲神域の中に、石祠が祀られておりその側面に寛政二年と刻まれている。

阿弥陀岳に関する記述はないが、広い山頂には多くの石祠があり、ほぼその中央に阿弥陀如来の石像が安置されている。他の石祠は今力不動、罪滅神社、湯原山大権現、大己貴

山と高原地図シリーズ

登山 各7割円(税込)

- | | |
|--------------|----------------|
| 1 北アルプス総論 | 34 飯豊山 |
| 2 白馬岳 | 35 磐梯・出羽三山 |
| 3 奥穂高・岩手山 | 36 奥山 |
| 4 新・立山 | 37 越前・白川・黒部 |
| 5 上高地・穂・野馬 | 38 奥穂高・早池輪 |
| 6 奥穂高 | 39 八幡平・中禅寺湖 |
| 7 磐梯山 | 40 十和田湖・野馬渡 |
| 8 中央・南アルプス総論 | 41 ニセコ・年輪山 |
| 9 不肖峠・安永岳 | 42 大雪山・十勝岳 |
| 10 羊蹄峠・北岳 | 43 白山 |
| 11 越前・赤石・奥岳 | 44 磐梯・宇治・秋保 |
| 12 妙高・戸巻 | 45 田代新・鏡ヶ岳 |
| 13 志賀高原・草津 | 46 比呂山系 |
| 14 軽井沢・奥穂 | 47 景観北山1 |
| 15 西上州・妙高 | 48 京浜中山2 |
| 16 美ヶ原・霧ヶ峰 | 49 京浜中山 |
| 17 ハツバチ・磐梯 | 50 北信の山々 |
| 18 富士・富士五湖 | 51 六甲・摩耶・西馬 |
| 19 磐梯 | 52 磐梯高原・二上山 |
| 20 伊豆 | 53 金剛山・岩手山 |
| 21 丹波 | 54 北信高原 |
| 22 高尾・奥馬 | 55 奥馬 |
| 23 大宮・奥馬 | 56 大峰山系 |
| 24 奥馬 | 57 又のつ・大杉谷・高尾山 |
| 25 奥馬・奥馬 | 58 赤目・奥馬高原 |
| 26 奥馬・奥馬 | 59 赤目・奥馬高原 |
| 27 奥馬・奥馬 | 60 大山・奥馬高原 |
| 28 谷川原・奥馬 | 61 四重山 |
| 29 磐梯三山・奥馬 | 62 石見山 |
| 30 奥馬 | 63 磐梯の山々 |
| 31 日光・奥馬 | 64 九曲・奥馬 |
| 32 奥馬・奥馬 | 65 奥馬・奥馬 |
| 33 奥馬・奥馬・奥馬 | 66 奥馬・奥馬 |

昭文社の山と高原地図は年毎更新として毎年春頃発行されます。この山行の際はなるべく最新版をご利用ください。また、昭文社の山と高原地図へのお問い合わせ、ご意見がございましたら、本社編集部(山と高原地図)にお電話ください。また、最新情報をお知らせいたします。

昭文社
株式会社

本社 東京都千代田区九段北4-2-11 電話03(3282)2141(代) 〒102
支社 大阪府大阪市西成区5-11-23 電話06(303)5721(代) 〒532
営業所 札幌・仙台・横浜・千葉・浦和・立川・名古屋・金沢・京都・広島・福岡



この日も行者小屋に泊まった。標路は赤岳温泉を経由し、御沢北沢を通じて美濃戸口に出てから、赤岳温泉を経由して、若手山の若い頃の思い出を書いている。八ヶ岳へ四季にわたって登ったのは、20代後半から30代前半までのことで、乗々と一般コースや急登り、冬期にもバリエーションルートをしたものであった。

今回は約20年ぶりの八ヶ岳山行である。東京近郊の低山ばかり歩いている間に、すっかり体がなまってしまったらしい。寄る年輩には勝てぬものだ、と思いつつ歩いた。

阿部陀岳なる赤岳温泉を行者小屋から寒に驚れる。見上げる山や山頂からの風景に驚かされた。足が疲れたが、赤岳に関するかぎり人工の手が少し分加えられていた。

山は自然にあるが、まが良いとつくづく思った。平成9年10月1日・3日歩く。

参考タイム 行者小屋6・40 麓線8・00 赤岳8・50 中岳10・25 阿部陀岳11・25 12・00 中岳とのコル12・35 13・00 行者小屋13・55

昭文社「17ヶ岳・資料」

命であり、年号の刻まれている行状に「明治廿六年 虚雲和尚 立派下講中」というのがあった。虚雲和尚の跡を見ることができた。阿部陀岳へは行者小屋から直接山岳との麓部へ登り、更に右手の急な急登をたどる。3時間もあればその山頂に達することができ



山頂の石碑と阿部陀仏

10月上旬、私は美濃戸から南沢に沿って歩き、行者小屋に一泊し、次の日、赤岳経由で

阿部陀岳へ登った。行者小屋から赤岳へは、地蔵原と文三郎道がある。私は地蔵原を登った。今夏は天候が不安定な日が多かったが、この日は曇りから北アルプスがよく見えた。赤岳への後継に立つと、富士山、奥馬、西上州から奥馬山に上る山々が見えた。

赤岳の山頂は登山者でいっぱい、奥馬はよく、奥馬、南アルプス、中央アルプスが見えていた。

阿部陀岳へは赤岳から西に岩場を下り、中岳との麓部を下る。中岳の山頂付近に霊神がいた。行者小屋からの登山道を合し、阿部陀岳への急な急登を登る。特に急登ではないが岩場での行動は慎重にしたい。

阿部陀岳は前記の通り主峰線から西方に離れているので、広い山頂から八ヶ岳のブレイクがよく見え、遠い山々の眺望も非常によい。そして山頂に多数の山岳宗教の痕跡を見ることができた。これ等の石碑の間、この山で不幸にも遭難した若い人の碑があり、それがなんともいえない。下山はゆっくり石を落とさないように、中岳の麓部を下りついでにはっきりと、麓部から灌木帯を下り、針葉樹林帯に入れば沢沿いとなり行者小屋の麓に出る。このコースでは、しばしばカモシカの姿を見ることができた。

紅葉の季節が終わると、寒い日が多くなっていく。冬期の登山で特に両足を体質的に足が弱い人になりがちなのが、物凄く痛いこむら返りである。その原因は医学的に尋ねると、一般的にビタミンCとカルシウムの不足だということである。

暑い季節、汗をかきながら歩いている時には波多に起こらないが、体が冷えて足が疲れてくるとこむら返りが起こりやすくなる。物凄く痛いこむら返りになり、そのうちに回復した。以後、こむら返りの予防に努めた。後、こむら返りの予防に努めた。後、こむら返りの予防に努めた。

野外活動に伴う危険と対策

坂井 久光

こむら返りが起こり苦しんでいた時、痛みの上部をゴム紐できつく縛ったところ、たちまち痛みが去り歩けるようになり、そのうちに回復した。以後、こむら返りの予防に努めた。後、こむら返りの予防に努めた。

野外塾

●カンジキ作り

関西アウトドアスクール
校長 二名 良日



年木、正月休みに「雪があるか?ないか?」は、スキー・キャンプ主催者の毎年の悩みです。一方暖冬とタカをくくって計画した山行で、ドカ雪に見舞われ、道を失って苦労した経験をお持ちの方も多いと思います。

「思わぬ雪に輪カンばかり」と山の歌にもあるとおり、そんな時に素早く「カンジキ」が作れたら、雪山サバイバル術からも雪山行動法からも、非常に好ましいので、今回は、**カンジキ作り**を取りあげます。

カンジキの種類

カンジキの種類
カンジキの種類は、形態・機能別に、二種類に大別できます。

一つは、信州・高山・アルプス型の、二本合わせ、楕円形、二本爪で、真ん中に踏雪器が横張りされた堅固・登高山の系統。

もう一つは、越後・東北・漆黒・平地用の、スキーストックの雪輪を大きくしたような近山形で、爪のない、楕円・椅子状などに、ヒモを密に張ったタイプ。

○スカリ一新雪、粉雪などでカンジキが効かない時、更にひと回り大きな「スカリ」を着ける。江戸時代の越後・信濃の紀行文・商人の鉛木杖の雪山民俗記「北越雪道」には、スカリをヒモで引き上げながら雪山歩行する珍しい絵が見られます。

○イタカンジキ
阿仁マタギは、春の雪害に對し、イタヤカニデ・ハンノキを削って作った「ワリカンジキ」を使用しました。下駄の履きである「田下駄」をカンジキと呼ぶ地方(山形・千葉など)もあり、忍草の「空手」なども、原形は同様に属します。

○カナカンジキ
同じく阿仁マタギは、更に堅い雪の時期には、三木爪の「カナカンジキ」を使い分けます。三木爪のうち真ん中の一本が逆向きにそり返っており、登り下りでも逆履きします。「シュタイクアイゼン」のように雪固を作ることもなく、「草付き・土の氣」表面もOKで、全面的に使われました。

○パイプカンジキ
堅くて強いアルミ・炭素繊維を使用した化学カンジキで、ワンタツチ式の締め具も採用されています。山小屋の産品「アレ」ピアンテナ製カンジキで生産したニューズも記憶に新しく、万一の時のヒントになりそうです。

○スキーシュー
カンジキの外周部分が「スキーシュー」です。短スキー・形・ラケット形・菱形・楕円形・円形……と多様です。木・アルミ材に皮ネットを張ってあります。

カンジキの作りか
○フレーム
竹・木・藁などが使えます。「竹」では、積雪のカーブを生かして、ネ

からもらったカンジキの爪は、半分位にチビていて、雪山に踏を踏うマタギの山行の激しさが、ヒシヒシと伝わってきます。

カンジキの使いか
○結び方
①前踵に抜けないように、ヒモ中央を折ってつま先を差し、②後側に抜けないように、一度足を通してカカト後でクロスし、③上踵に抜けないように、足指部でクロスし、左右のヒモを巻き通して結びます。

○スキーシュー
はスクエアノットなどで結ぶ。

○歩き方
赤ん坊・殿中(長)袴姿で、持ち上げ、外脚し、ガニ股歩きが基本です。

○ストック
スキー・ストックを併用すると、楽に安定します。ピッケルの石突き穴に雪輪を作ったり、マタギ流に斜めにした又穴をストック代りに杖のように使う手もあります。

○雪ベラ
有名登山家の著書に「カンジキで深雪を必死でラッセルしていたら、連元の人がニヤニヤ笑いながら、雪ベラを使って、あつという間に通り抜けて行った」というくだりがありました。マタギベラとも呼ばれる楥のような楕円スコップ一本が、雪を蹴ったり、杖・ピッケル・ソリなどに使えるわけです。

山小屋の備材一枚で簡単に作れますので、イザという時には迷わず試してみてください。

マタギがよく使われます。「木」は、奥羽根の遊原帯ではジシヤ・マユミを、秋田の阿仁ではトリキシバと呼ばれるクロモジを多用していました。

スキーシューの場合は、スキー同様ヒョッコリが良いと言われていました。

「登」は、長野でヤマブドウの太丸製を見た記憶があります。

曲げ方は、火であぶったり、熱湯に浸けて曲げ、冷水や雪で冷やして固定します。

大きすぎたり、固くしすぎると、歩く時に内側のへりを踏んで転びます。

縫製は、同じ理由で外側にし、出っばりを後向きにしないと、杖を引っかけます。

○ヒモ
秋山郷の「歴史資料館」のものなど、古いものは植物繊維製の縄です。

阿仁町打出の「ふるさと資料館」には、皮



牛皮を使った阿仁マタギの新雪用のトナリカンジキ

阿仁町打出の「ふるさと資料館」には、皮

製のヒモがありました。新雪には「トナリカンジキ」といって、沈みにくい牛皮カンジキを使うのがおすすめです。

最奥の村、打出のカンジキ作り名人のおじいさんの作品は、すべて楕円形ヒョロンテーア仕様でした。雪をほじき、しっかりと結べるので、大変良いとのことでした。

ケバケバの多い強作り用の麻ヒモは、雪玉が付着してダメでした。巻頭ストレッチヒモも、年数が経つとパラパラに分解します。

ペーキング靴の探検に使われたスキーシューには、カリブーの皮が縫製されていました。

登山用ツメカンジキの跡ヒモのかけ方は、上よみ手部分に、楕円二本ほどで十分です。ここを支点に、つま先を楕円の前面に踏みこむことができるので、足首への負担が軽減できます。

○ツメ
ブナ・ナラ・イタヤカニデなどの堅木を使わねばなりません。

しっかりと固定するには、J字形の二本の杖を向かい合わせにし、その裏の間に爪を挟む必要があります。それでも堅固な上で体重がかかる、足を持ち上げた時に爪が抜けるので、ホソを刻み、爪先を尖らせるなどの細工が必要です。

打出マタギのシカリ(意匠)鈴木松治さん

甲斐駒ヶ岳が間近に迫る

日向山

南アルプスの連嶺を遙かに眺めるべく、私はこれまでいくつかの前線に登っている。春まだ浅い3月の終わり頃、大西山、箱形山、そして入笠山に登った。大西山は、長野県大南村の大河原より登った。大西山自体はすつかり雪の気配で、遠坂村に明る山頂上にはもう雪はなかったが、真白の3000以上の連なる大展望に、爽快な気分を味わうことができた。一方、山脈の東の山別荘側にあるアヤメの群生と有名な箱形山は、国民の森からの眺望を諦めしめて登った。その日も快晴だったが、シラビソの原生林にはサルオガセが大きく垂れ下がり、山の精が棲んでいるようなあやしさを感じた。箱形山の一峰である樺山の頂上からは、3000の群峰が押し寄せ

松田敏男

南アルプス

るような圧感をもって眺められた。そして南アルプスの北の端に位置する入笠山は、登路の始めから展望が広く開け、常に八ヶ岳の大きな山容を振り返り見ながら、さらさらと振り返す白雲を踏みしめて登った。この日も快晴に恵まれ、頂上の360度の大展望は、下界一面が見わたせ、地球の真ん中に居るわっているような感覚にとらわれた。南嶺だけが南アルプスの大きな峰に視線の行く手を阻はまれ、甲斐駒ヶ岳の鋭しく天に突き上げた白く光る岩壁が、ひとまわり印象深かった。大西山と箱形山は、山中で誰ひとりにも会うこともなく、快晴の空が一層深く静けさを感じさせた。他にも、七郎山、戸倉山、鬼面山と登っていったが、これら三山はすべて雨だった。

日向山より甲斐駒ヶ岳を望む

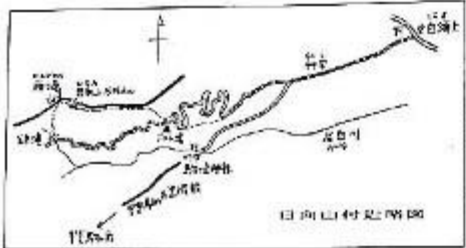


そして今回、前線峰の七山日は日向山。いままで三山は快晴で、三山は雨という深い天候を自覚してきたが、果して今回の山の女神はほほえんでくれるだろうか。

口倉山と鬼面山は、山の会の山行なので、鎌倉を築にしたが、南アルプスという奥西から深い山脈に、しかも1600mから2000mの山だけを歩き、単独で登りに行くという私は、やはりずいぶん山好きなのだろう。

今回の日向山は、東京の人なら日帰りもできる山だが、私は三日間かけて、じつくりと山に浸る計画を立てた。往復長距離バス利用で、時間がたくさんかかってしまうということもあるが、その昔、有名な作家が山の頂上郎と歌えた甲斐駒ヶ岳の東之側からの道は、ゆつくり味わいたかったからだ。

箱田より半野までの西通バスに乗る。JRに乗るより半野までの西通バスに乗る。JRに乗るより半野までの西通バスに乗る。JRに乗るより半野までの西通バスに乗る。



は利用できた。冬は運行していない。長坂駅からタクシーに乗る。一人ですぐに降り、バスに乗る。バスに乗る。バスに乗る。バスに乗る。

上の方まで行ってくれれば、歩く行程はずいぶん短縮できた。林道脇にある日向山登山口の標識の前で下車。16時5分頃、どんより曇っていた。夕方のまじし曇り、まわりの冬木立は薄暗かった。テントを張る。下界が見え、明かりが点き始めた。木々の間からぼんやりと白い甲斐駒ヶ岳が覗き見えるが、暗くて無表情だ。私のテントもあたりの樹に溶け込んでいき、いつしかテント内の明かりだけの世界に絞られてしまった。他にはうんと涼しく、下界の点々とした灯が、心の交響曲のように見える。夕食を終えて、限りに就くことにする。今年も正月が過ぎ、きょうの4日も暮れた。今年こそは、何か考えたのだろうか。いや、また忙しく三日を済ませて、気がついてみたら山の中だ。正月は、いまだに華やかに感じる物も少なく、いまだに山の中だ。少し眠ったのだろうか。テントが暗い。いつの間にか日が出て、林道を白く眩々と照らし、雑木の幹が細かく浮かび上がっている。街の灯はまだついていて、今は月明りの雑木林に、ほろほろと描いていた日向山の一角に、こころがうろたえていた。もう下界との愛は薄くなり、明日はき

つと晴れるだろうという期待に心は傾いていた。はたして次の日、一片の曇りもない快晴の朝を迎えた。太陽の光は雑木林のすべてを鮮やかに黄金色に輝かせた。豊かな雪が一夜の暴開けだ。冬枯れの木立は暖かき日の光に染まり、緑の枝には朝霧がキラキラと光っている。日向山は小さい山だから、このわずかの雪りに心をこめて、ゆつくりゆつくりと登る。まわりの木々から滲散される自然の気配、身体一杯に浴びる喜びに浸りながら。早く登るのはもったいない。体が山になつてしまおう。ワンハイハイだから、荷物はいくらに軽い。最後に辛いな気分だ。こんな気分は一年に何度か訪れてくるだろう。今年は何年か出た。山脈を登る道から尾根に乗るあたりで、雪の道にかわって来た。雪の上には小動物の足跡が見え、心は一層あたたかくなる。やさしい気分だ。きせられる。森林の間から甲斐駒ヶ岳が見え、四圍三山も見え隠れする。気配が緩くなつてきて、登山道より右に少し入った所に三角点があった。周囲は細かい雑木林にかこまれていて、いたって平凡な頂上だった。休まずそのまま進む。日向山の目的は三角点から半分ばかりで突然断崖が切れて、



霧より八の香を望む

岩と砂で構成されている雑沓な山だ。静かな樹林帯との対比は強烈であった。岩ゴブが小さな尾根となって、谷をめぐって幾すじにもなだれ落ち、その間にザラザラの砂の斜面が広がっている。反対斜面は草地で、ブナの疎林が点在し、私の気配を素早く察知してか、大きな獣の香が谷の方へ遠ざかっていった。甲斐駒ヶ岳を真正面に見据える岩壁に腰をおろす。南斜面だから日はさんさんと照り、極めて暖かくのどかだ。背中をのびしてザラ地帯の方を見やると、影を深く落とす山々とした景観がある。全く対照的だ。甲斐駒ヶ

岳は大きく高く、雲を掻かして峻然とそびえている。絵を描こう。このたかぶつた山の気持を早く絵にしよう。甲斐駒ヶ岳と奥三山を描いて、昼食にした。3時間以上取上っていて、満ち足りた気分になった。

下山は、ザラザラの南斜面を急降下し、樹林帯に入る。振り返れば、紺碧の空に雲がと見まがうばかりの日向山が、静かな樹林越しに明るく輝いている。何處振り返ったであろうか。名塚のつきない道だ。木の根を張りめぐらしている急な階段状で、なかなかな難所ある味わい深い道だった。ゆっくり歩いたのに、少しの距離で、林道に降り立つってしまった。そこには舞臺が氷凍りとなって落ちていた。一段の立派な滝だ。上の滝はまともに見ることができず、その途端へ行くことも出来たが、大きな岩を乗り越えずに断念した。下の滝の前には立派な車道があり、その香を前に、お茶を沸かしてゆつくりとした時を過ごした。

あとはテントまで林道を歩くのみ。右手には甲斐駒ヶ岳、その左には奥三山、行く手には富士山が眺められ、故郷気分だ。まだまだ時間は早いから、林道の端点を来るたびに、ゆつくりと四脚を眺めた。後ろから二人連れが来て、私を抜かして行った。さのうのタクシーの運転手以来、人に会うのはまる一

日ぶりだ。すぐには、私の足音だけになる。風もなくほとんど音のない静かな林道だ。

テントに戻り、また同じ道を歩いて甲斐駒ヶ岳。こんな道が自宅の裏山にあれば、どんなにいいだろうという思いにかられた。

次の朝も曇りで心地よい。林道の扇曲点の崖つても前をささるものない所で、朝日を浴びた甲斐駒ヶ岳を描く。

テントを撤収して、旧登山道を下山する。二泊したテント場は、タクシーを降りた地点だったので、山中で大きいザツクを担ぐのは初めてだ。しかし山で五食分を食べたから荷物はずかしくなっていた。しかしザツクにはいい思い出がいっぱい詰まっているようだ。

自派上まで歩き、バスが来るまでの1時間神社の境内から甲斐駒ヶ岳を知りながらお茶を沸かした。生活の場から眺める遠ざかった甲斐駒ヶ岳は、いささか色あせて見えた。

平成3年1月4日(日) 日暮

△コースタイム▽林道登山口(1時間40分)
日向山(別荘) 麓(2時間) 林道登山口(2時間) 自派上

◎撮影◎ 2方子(千一) 長坂士楽
昭文社「100甲斐駒ヶ岳」北巻

野の花讃歌 (一)

市川 正次郎

自ら、生きる、花を



野の花 山の
花との出会いはい
いづ明だったの
シタ だろうか、と
ユキ 幼少の時、大阪
市内から高槻市
の田舎へ疎開し、
食べるために両

朝が苦勞していた姿が生々しく思い出されて
涙の嵐に咲いていたイヌフクリ、嫁家の広い
庭のサクラとワケランボ、少し山へ入ったこ
ころに群生していたシヤガの花、本当は懐し
いのだけだと思いたいことも、ひと口で好きな花
とは言い切れません。

そして大阪市内であくせく四十年、友と
のみとした付き合いで、それまで全くおぼれて
いた自然とのふれあいが始まったのです。
最初には津島城やから五輪堂や津島の当尾の里

そして、上野野かか三輪山への山の道の道
原、光院から阿部野原への大原の里、などを
歩き、勝勝に咲く小さな花にやすらぎを覚え
葉に心をこぼす思いをしたものです。

ツバネが大和の山に渡り上り、と出か、
ショウブを見に高槻の山へ、秋には北摂の
奥深くコスモスの群生を見に行きました。

しかし何が物足りない。満開の花はきれい
だけれど、種を拾われ、植えられ、そこに咲
かされているという感じが、心にじくじくりこ
なかつたのかも知れません。

その頃から山歩きが始まりました。たとえ
小さくても、一輪でもいい、大地に響きして
咲いている花たちとの出会いが嬉しくてなり
ません。力強い命を感じます。守つてやりた
いというやさしい気持ちが生まれます。

山、そして出会い



野山を歩いてい
ると、いろんな人
と出会います。登
り口からおおずかな
「おはようさんです」など
と、声かけて元気

な挨拶をする私なのですが、無言にきしかか
り、あえあえとさながら、「(こ)ん(じ)らわ(ん)」
と早急の挨拶一杯、自分より元気な歩を進め
る人のスタミナにうらやまを感じたりして、
花と自然が好きで、どちらかという天人様
にはひっこみ思案の私。山で話しかけられて
答えることはあっても、めつたに自分からし
やべることができず、暗い感じを与えている
のではと愧じています。

それでも本日はつても嬉しいのです。山、
という共通項があつて、同じように汗を流し
ている人とは、言葉や会話はなくても、わか
りあえているのではなにかと思つてからです。

去年の7月、大峰山系の桐村ヶ岳へ登り、
山小屋に泊まった時、何とか野鳥の会の皆さ
んを同室しましたが、私は早々とふとんを被つ
ていたのですが、野鳥の生息、自然保護の決
断など、その人たちの熱い議論を興味深く聞かせ
てもらいました。

翌日下山中、谷原で足を滑らせて右手を捻挫
した私を、車で前川まで送つて下さった野鳥の
会の皆さん、本当にありがたうに思います。
車の中で教えてもらった「おはようさん」の
悲しげな囁き声は今も耳に残っています。
その後の私、野鳥会に通い、一月後にはパ
ートに復帰、また山に登っています。

笠岡諸島

白石島と真鍋島の神一等重点

岡山

慶佐次 盛一

洋上のアルプスのような白石島



岡山県南部の瀬戸内海国立公園に、30余の島々が飛び石のように連なるのが笠岡諸島である。そこには信仰の島、石の島、花の島などがあり、古い歴史と自然とを秘める島が多いのだが、冬場は雪外と訪れる人が少ない。私達は観光客の少ない正月にねらいを定めて雪巻8キップを使い、名勝地に指定されている白石島と、花の島の真鍋島の1等三角点を訪ねる1泊2日のハイキングに出かけた。

白石島

笠岡港から出航した真鍋島行きの高津船は、天然記念物カブトガニの繁殖地でもある水道を抜けて瀬戸内海に出る。波はおだやかでよい日和、船客のほとんどは正月の帰省

客で観光客は少ない。

高津船は20分ばかりで白石港に着く。港からは白石島の低い山並みが望まれるが、中でも今にも転げ落ちそうな大玉岩の奇岩が目をはびく。島内唯一の郵便局を過ぎ、いかにも漁村然とした狭い町中の道を縫いながら、登山口の一つである開地寺へ向かって歩く。

開地寺は弘法大師空海が唐より帰国の際に白石島に立ち寄り、自ら刻んだという観音像を秘仏とし、神野島八十八ヶ所の庚の院根本道場とされる由緒あるお寺である。狭い道の傍に「大師のみち」と刻まれた石の道標がたゞ、道標に導かれて開地寺境内に着く。

寺内からは例の大玉岩が迫り、近くには白い仏舎利塔が見える。寺内の右の三尊堂神へり返す。階段の上は落石となり、やがて小祠を過ぎても白石山に着く。正面の島は、大阪城築城の際石切り場の一つだった北木山だ。快晴なら四回石船山や山陰の伯耆大山も見えるそうだが、濃い春霞に包まれて視界はほとんどなかった。

白石山に近づくと、鏡岩の分岐に戻って鬼ノ塚山に寄る。ここに天然記念物の鏡岩がある。花崗岩の表面に雲の道垂のような跡理が噴出したもので、きわめて珍しいものだという。鏡岩からセントの急な階段を下ると飛龍大神の境内に着く。来た道を戻って真鍋島行きの船を待つ。

夕日の残照がおだやかな波に映え春れかけた17時頃、真鍋島に着く。今日の宿は港近くの西海岸にある久乃貝旅館。向の前は学校用地に埋め立てられている。泊まり客はほぼお一人を合せて15、16人位。おかみは、手が走らないのであまりお客さんを引き受けたくないのですと言いつつも、一家総出の温かいおもてなしで海の幸をたっぷり



どつしりと板を下ろした大岩だった。岩根に鏡岩への分岐に出たが鏡岩は後にして、立石山へのコースを歩く。近づく立石山は峻嶒で随所に落石を配し、洋上アルプスの感がある。廻りに見える奇岩に、まるで近江の湖南アルプスを歩いているような錯覚を覚えた。

いったん峠を下り、階段の道を立石山へ登

輸入ブーツは車狭く、甲低く、カントも無く、その上土踏まずのアーチが薄過ぎるもので履き味の日本人には合いません。痛いばかりか、時にはヒザ、腰のトラブルの原因にもなります。アンドウならばすべて安心！
 町野の店はヨーロッパガムを使用していますので、防水性、耐久性、回復力も抜群、しかもうれしい軽さ。重登山靴からウォーキングブーツまでフルラインアップ。
 問合では当然の如く仕立販売です。
 是非一度お試し下さい。

登山靴ならアンドウです



- ① ③④カームネックス ¥30,000
- ② △24100 ¥30,000
- ③ ⑤ ¥39,000
- ④ △3FDX ¥29,000
- ⑤ ⑥ ¥25,000
- ⑦ ⑧ ネットスタッフ ¥27,000

山とスキーの
ヨシスポーツ
 〒543 大阪市天王寺区南河堀4-70
 TEL06(772)7231

賞味させて頂いた。

真鍋島

通称ゴリゴリ島とも呼ばれる真鍋島は、世には真鍋水車の本拠地でもあった。今は全島が岡山県指定のふるさと村である。島の周囲は8.1kmで、昨日の白石島の半分位だろうか。遊覧は主に漁業だが、12月から4月にかけては寒菊の栽培が盛んで、他にマーガレット、キンセンカ、スイセンの花が咲き、花の島としても有名で、島の花もマーガレットで



ある。この旅の目的の一つには、真鍋島の山の神の一等三角点を訪ねることもあったのだが、今が盛りと咲く寒菊の畑を縫いながら三角点を訪ねるには、もつともふさわしい時期であろう。

島の主人から、山の神なら天神さんからだと助言を頂いて、私は島西部北端の天神さんへ向かう。海岸沿いの道に道標もあり、小高い丘に鎮座する天神さんに至る。素朴な造りの社にお正月の新しい飾りと、清酒が供えられている。社の前の整備された階段の道を登るとふれあいパークで、フィールドアスレチックの設備や、マーガレットやスイセン、薬ボタンに飾られた美しい花壇があり、真鍋港が一望できた。

花壇の先の道は細いが、道端に石仏が並んでいる。私達がたどる道は、島内八十八ヶ所の巡礼道でもあるようだ。緩い坂道を歩いていくと、道標のため笠置行きの第一便は欠航します、と下の方から大きなマイクの音が島内に響き渡っていた。

いつしか斜面のそこかしこに寒菊畑が現れる。出陣前でまだ霜は同じが、背の中からほんのりと白や黄色、赤の色彩が伝わってくる。田舎寺からのコースも上がってきて、「農業試験除場跡 山の畑」と書かれた道標に導かれて

歩を進める。道に沿って音池の畑も点在して、道端にはスイセンがひっそりと可憐な花を開いている。

細い道が茂る所もあり、笹の露が靴やスボンの裾を濡らす。昨日の白石島のように、展望に恵まれた眺めな道もなく荒々しい露骨もなく、真鍋島は戦地往の樹木に覆われた穏やかな島だ。真鍋四郎祐久の城跡と書かれた説明板が倒れている所を過ぐすと、目の前になだらかな山の神の頂が見えて頂上に着く。

120・7mの一等三角補点塔が、保護石に囲まれて埋まっているが樹木に覆われて展望はない。説明板があり、この山は阿蘇地山とも呼ばれ、かつては雨乞いの山でもあり島内の信仰を集めている所だと分かる。小さな露岩に山の神の祠が祀られ、赤い島居と八十八ヶ所巡りの石仏もたっていた。正月とあってきれいに掃き清められ、新しい飾りも見られる。樹木に覆われて展望こそないが、それがかえって、露のこもる山という印象を強く与えた。

一息ついて山の神の頂を下る。下る途中にも石仏がたち、やがて道は島の南面を伝う農道を兼ねたコースとなり、右には瀬戸の海が輝く光を放つ。ここまでくれば四回山並みが十分境界に入るはずだが、今日も濃い霧

に包まれて近くの鳥影がおぼろげに見えるだけだった。

島の南面は気候も温暖なのか寒寒の成育も早いようで、色とりどりの花を開き退屈させない。行く手には真鍋城址と島内最高所の城山が小高い頂を過ね、寒菊畑には冬時珍しい放し飼いの鳥が遊んでいた。福原には廃船を利用してユースホステルが見え、港からそよぎ来る風はほのかな寒の香りを運んでくる。そんな寒菊のお花畑を私達はのんびりと歩いた。

島中央の真鍋橋の下り、農道を兼ねた細い道をたどって真鍋城址に登った。ここも真鍋四郎祐久の城跡とか、二体の石仏とNHKのアンテナがある。ここは城山城址ともいうらしいが、島の人達はジャーマンと呼び、鎌倉時代のものと伝えられる石垣も見られた。



真鍋島山の神の... 真鍋城址を下り、寒菊畑が続く

道を最高所の城山へ登る。セメント舗装の道は整備された階段の遊歩道となり、東田風の休憩所が建つ頂上に着いた。赤い島居のお稲荷さんと小さな祠、そしてここにも八十八ヶ所巡りの石仏が賑かに祀られていた。島内最高所を示す127・1mの三角点は見当たらず、笠ヤブの中に展望図があったが見事らしい。今一つ、しばらく休憩して元の道を戻り岩坪を下る。

岩坪から海岸沿いの道を真鍋港へ向かう。澄み切った穏やかな海面は、ひねもすのたりのたりかな、の風情を源わせ、八幡神社や小さな石仏群を過ぐして真鍋港に着き登壇行きの船を待つ。白熱電機飲食物類はまだ1000円で買えるというおぢらかさで、一東1000円世の寒菊の花束がパケツに生けられて並んでいた。平成5年1月23日歩く。

ハコースタイム
笠置港 宮浦港 30分 白石港 30分 鹿神山 10分 大玉岩 25分 立石山 20分 磯岩 30分 白石港 30分 真鍋港 30分 真鍋島 15分
城山(30分)真鍋港(宮浦港)分登閣港(15分) 大畷く笠置港(15分) 18キップ2枚

登山に必要なものは、
国産・舶来
すべて揃っています。

足にピッタリ/
登山靴のことならお任せ下さい。

〒604 京都市中央区丸太町通堀川東入
☎ 4075 211-5768
FAX 4075 231-0318

山とスキーの専門店
京都 ムラカミ

笠置港	白石港	55220円
白石港	真鍋港	10700円
真鍋港	笠置港	9900円
久乃島別荘	1泊2食	80000円
真鍋町観光連盟	086656	(3) 2111
三洋汽船	086656	(3) 3131
久乃島別荘	028956	(8) 3653

新春初登り、『今昔物語集』に出てくる

甘南備山

南山城

内田嘉弘

『今昔物語集』に、山城の國の神奈比寺の聖人法華を誦して前世の業を知る話

今は昔、山城の國、綴喜の郡に飯の岳(いひのだけ)といふ所あり。その成玄の方の山(甘南備山)の上に神奈比寺といふ山寺あり。その寺に一人の僧住す。幼より法華經を受け留む日夜に誦誦す。また、真言を持ちて坐して行なよ間、蓮分にその喚あり。しかれば、徳を明く事振ありけり。

しかる間、この僧、嘗に「この寺を去りて大きな寺に行きなむ。」と思ふ心ありけり。しかれども、忽ちに行く事もなくて、思ひながら過ぐる間、なほ、よくよく思ひ定めてければ、既に出でては去りなむとするに、その

夏の夢に「我をいたる僧來たりて、言はく

「我、汝が宿世の業を説きて聞かしむと思ふ。汝、前の世に蚯蚓の身を受けて、當世この寺の前の庭の土の中にありき。その時に、この寺に法華の持者ありて、法華經を誦誦せしを、蚯蚓、當に聞きき。その善根によりて、蚯蚓の身を棄てて、今、人と生まれ、僧となりて、法華經を誦誦し仏道の修業す。これを以て知るべし、汝は此の寺に修業ある身なり。されば、專らに他の所へ行へべからず。我はこれに、この寺の業師如來なり。」とのたまふ。」と告げて、夢覺めぬ。

その後、初めて前世の報を知り、この寺に縁ある事を知りて、他の所へ行かむ思ひを止めつ。

その後、永くこの寺に住して、ねんごろに法華經を誦誦して思はく「我、前生に蚯蚓として、蚯蚓として、蚯蚓として、この寺の庭の土の中にありて、法華を誦くたよりて、虫の身を棄て、人と生まれ、僧となりて、法華經を誦誦す。願わくは、今生に法華を誦する力によりて、人果を棄て、淨土に生まれ、菩薩を証せむ」と誓ひて、行ひけりとなむ誦り伝へたるとや。



甘南備山へ初登りに向かう人々

〔南山城の文芸王京都府立城山高等学校校舎跡(十四巻・二下五九頁)参照〕

毎年一月三日、田辺町文化協会主催で新春甘南備山初登りが行われている。平成二年に私もこれに参加した。

J.R田辺駅で参加の受け付けを済ませ、田辺の古い街並みを抜け、府道水津八幡線を渡り一休寺の横を通り、新小学校在学した夕



甘南備山付近地図

ループと二緒になって手原川に架かる橋を渡る。京奈和自動車道を沿り、竹林の横を真っ直ぐにアスファルトの道を行くとコンクリートの橋があつて、その先に干支備山登山道と書かれた古い石柱の道標がある。この橋を渡ると左側に駐車場がある。山頂近くまで車道がついていて、一般車はここで止める。車道を使わずすぐ右にある旧登山道を登る。スギ林の下、滑りそうなツルツルした土の山道を登ると水平な道になり、沢を渡る。道の登りで、小さな支那橋の「元」の道標がある。頂上へ」と「谷筋を経て頂上へ」の道標がある。尾根筋を渡り、登ると下からの車道と合

つていて、3〜4分先で右へ入る1分間の道を5分歩行くと2等三角点のあるピーク(201.6m)に到着。若いヒノキ林から北叡山

と山科の音羽山、千栗山が望まれた。大津越に戻つてこもりした甘南備山へ、こちらも5分程で甘南備山神社のあるピーク(217.7m)に着いた。鳥居のある山頂の広場には30人以上の町民が集まつていた。主催者側の音羽で「二月一日」と田辺町の歌を参加者全員で合唱。御前池とみかんが配られた。山頂からは水津川右岸の山々、宇治田原の大森山、鷲峰山、奥谷山、井手町の高野山、大槻山、山城町の三上山、宇治の六石山、喜樂山、山科の千栗山、高塚山、音羽山、それらの北には比叡山、嵯峨ヶ岳、北西から西にかけて愛宕山、小塚山、ボンボン山と展望よし。山頂付近はサトザクラ、オオシマザクラ、ソメイヨシノ、ナンテン、ニシキギ、イロハカエデ等が植樹されている。車道の通じている水鏡谷では昔は水鏡がよく出たという。また登り口一帯はサキノウがいかばい群生していたが、宅地開発で山土が採られたので、水が濁つて絶滅してしまつたそうだ。

れいな新雪の景色に、みんなの嬉しさの音が山
 肌を響き渡り、鳥、ケモノを驚かす。出合
 から200歩も進んだあたりで4WDの車が
 下りてきた。轎轡の車だ。「シンギン入って
 るか」と聞くと「入ってない」の返事。安心
 して雪の林道を進む。轎轡も古風回谷の出合
 いまでで、その先は入路未踏の新雪積もる林
 道だ。トランプは経緯がかならずに居る。そ
 のあとにリーダーが抜く。直谷小屋、水ノ水
 峠道も雪の中。ラッセルされたトランプを16
 人が踏み向め、林道に連続進路ができる。後
 から来るパーティーは寒に負け、雪ふことた
 う。

雪が止んで一箇日の休憩をとる。この小屋は
 北山の先駆者、森本次郎氏が京都二商の学生
 の父兄の協力で建てた小屋。昭和の初期には
 一中の北山より整備された小屋と「京都
 北山と丹波湖」のガイド誌に記されてある
 が、今は北山荘のほうが手直しされていて利
 用者も多い。(一中の先駆者、河野、桑原、武
 氏らが手直しされた。直谷林道も沢杉荘の先
 500歩先におしまい。細々谷と豆ヶ谷の出
 合いでどちらをともか選案するが、短距離の
 細々谷コースをとる。雪の中慎重に渡渉所
 をさぐる。トランプは蘆木、葎、植林に積もる
 新雪路として豆ヶ谷を採すのも一言、岩飛び

は新雪で危険、男の人が交互にラッセルし、
 細々谷の雪道作りに奮闘する。履跡あるのみ
 の私は後進を各に注意させないようにと踏
 道に専念し、ようやくアズキ坂の出合、
 杉林の斜面にでる。夏ならば何でもない道も
 ちよっと連続すれば谷に転落しかねない雪の
 道。後進者に安全山行をコールしながら柳谷
 峠へと細々谷をつめる。

雪の樹間から一帯の様子をかぶった北山荘が見
 えてきた。この景色は北山らしい最高の樹間
 だ。参加者16人の感動も同じことだと思ふ。
 トランプ運中も最後のラッセルと進路が早
 い。11時30分、全隊小屋に入る。振り返りか
 ら雪が入って飯の間に積もり寒々としてい
 る。各半分けて、滑す人、たき火に
 かかる人、スノー作りにかかる人、たちまち
 にして小屋内は生気をとり戻す。

リーダーから「1時出発予定でゆっくりし
 て下さい」と告げられ、Tさんの先導で直谷
 山まで勇敢なお姉さんたち6人が雪山道に
 歩く。そのうち回廊のたき火も大きなホッ
 火になって小屋内は暖かくなるとなり、濡
 れた衣服も乾かされてとんとん乾いてい
 く。リーダーが山小屋準備の大鍋で熱いコン
 ソメスープを仕上げられる。K天婦のプ
 メンも仕上がるころ、ちよと魚谷山ゆきの

【この雪(2)】

杜鰐(カサネ) (Ostracean)
 カサネ (Ostracean)
 雪と氷に、カサネの味はいい。雪面に好
 ました。生で魚介類を煮たり焼いたりする
 人でも、生カサネは大好物のよう。雪
 によつては季節的に調理法が変わることから、
 雪のつがはいいには調理法が変わらな
 ず、正式には、軟体動物、生食、煮、焼、
 カサネ、カサネに分かれます。
 一方、この貝殻(カサネ)は、「神農本草
 経」の上品に収録され、きびでも薬方処方
 によく使われる生薬の一つです。雪道だ
 ところでは、カルシウム入りウエハースの商
 標にも使われています。
 ホシは、マガキの肉を取り除き、殻を
 洗浄後、蒸かすまで使ってから粉末に
 して使います。成分は、炭酸カルシウム、リ
 ン酸カルシウム、ナトリウム、微量のケチ
 ン(骨タンパク質)など。
 カサネは、カサネの殻は、カルシウム不足
 ではよく使われますが、ホシは、精
 神不安定による動、悪夢の動悸や不眠、あ
 るいは制動として使われています。

道中も帰ってきた。白根のお家の数々が
 広げられ、炬を囲んで山田男女の偉大な山小
 屋家が始まる。雪見酒、雪見ビールが小屋
 一下のメイトルをあける。

後半のコースは軽いとはいえず、雪の山道は
 何が待っているか分からない。小屋内をかた
 づけ、火の始末をし、14時過ぎに小屋を出る。
 ちよと我々のラッセルした跡を3人連れが
 小屋を利用するために2がつくるところに出合
 った。「雪降時からアズキ坂越えできた」と話
 す。アズキ坂の出合いからは渡しが踏んでい
 たから、豆ヶ谷の湖まで突進下りる。直谷の
 分かれから峠への登りも踏んであり雪分する



ことなく滝登りに出て小休止する。ここで雪
 山登りのハイカー達に出会う。

北山メインルート・二ノ湖エリは今朝か
 らたくさんの方が踏んでいて、雪道が滑り
 過ぎて比叢から天狗杉までの山道が見えな
 ず、ザラ谷から3人ほどのハイカーが登りつ
 いた。今朝の時間に会うのは、やはり雪道のせ
 いだろう。雪道してならぬでもない谷の台地。好
 景晴らしの、雪道が立つが後の幼樹を踏
 みつけないようにと気を付けてほしい。大きく
 土俵ほど踏み分けられ過ぎていた。幼樹があるが、
 幼樹が踏み倒されていってしまっている。小さいハ
 イカーには困ったものだ。山王が立ち入り禁
 止を訴えるのも無理はない。あんな痛恨歌上
 りは、幼樹保護を訴えて、看板のほうが必要
 だと思ふ。看板に注意して我々も小休憩を
 とる。熊山・天ヶ岳・熊山・熊山・熊山・
 ナツチ(天ヶ岳・比叢・熊山)と我々にはな
 じみの山々が白黒のアズキ坂で広がる眺めは
 看板通りの好景晴である。

水ノ水峠の分かれから雪道谷の標高のユ
 リ道にかかると、こも1970年風の風が
 痛々しい。倒木の姿は手入れのしようがない
 ほどだ。山林業者の苦悩を思う。夜泣き峠へ
 の連続分岐を過ぎると、こも1970年の雪も減
 り、熊山麓の雪道となる。今朝の直谷や柳

谷の白い雪の新雪の風景は雪道の差だ。
 昔道口への下り降雪をアツという間にくだ
 り、16時15分、長船口駅につく。いつも通り
 駅前の商店で雪見酒を飲ませると、リーダ
 ーの静かな声。17時11分まで、電車待ちの
 間、天ヶ岳で雪例、靴の仕上げで本日の中
 山行を締めくくる。

平成4年2月2日

- 八巻者コースタイム 北天路 総行程 8・
 00 中津川 林道 松尾谷 分岐 8・40 9・00
 柳杉 10・20 北山荘 11・30 14・00 滝谷
 峠 14・40 水ノ水峠 分岐 15・30 龍事 分岐 口
 16・15 (急降)
- (地形図) 2755千 周山・大原
 昭文社「47 京都府 北山」
- (参考書)
 「水ノ水峠」(モノミスト) 北山直谷を
 こよなく愛した森本次郎氏が、地元雪道細の
 古道から開いたという水ノ水峠をつめた時
 で、水ノ水峠という名がつけられた。水ノ水
 峠・水ノ水谷とガイド海エリアマップに各
 称があるが、水のように冷たい谷水の地名は
 ロマンで、我々もなうつける。龍事谷・
 長谷と中津川直谷とを結ぶ最長距離の地名は
 水ノ水峠がふさわしい。昭文社 山口 表次

熊野古道を歩く

はじめに

児嶋 弘幸

熊野(半)神社(本宮)、熊野御玉大社新宮、熊野夫須美神社の三社を総称して熊野三山という。三山と称されながら、本宮は熊野川の中州にあり、新宮は海浜、熊野は流がご神体である。この地域は文化の中心地であった大和・摂津・河内国から山と海で隔てられ、ここに至る交通路はいずれも困難を極めた。しかし、それ故に熊野は古くより聖地の同

世の国といったイメージがつきまとい、奈良時代の仏教宗師空海「日本書紀」などから当時かなりの信仰を集めていたことがうかがえる。

平安初期には修験者や修行僧の道場として聖地化され、延暦七年(九〇七)の宇多法皇に始まった熊野朝幸は、弘安四年(二二八)の龜山上皇をもって終わりをづけ、承久の交

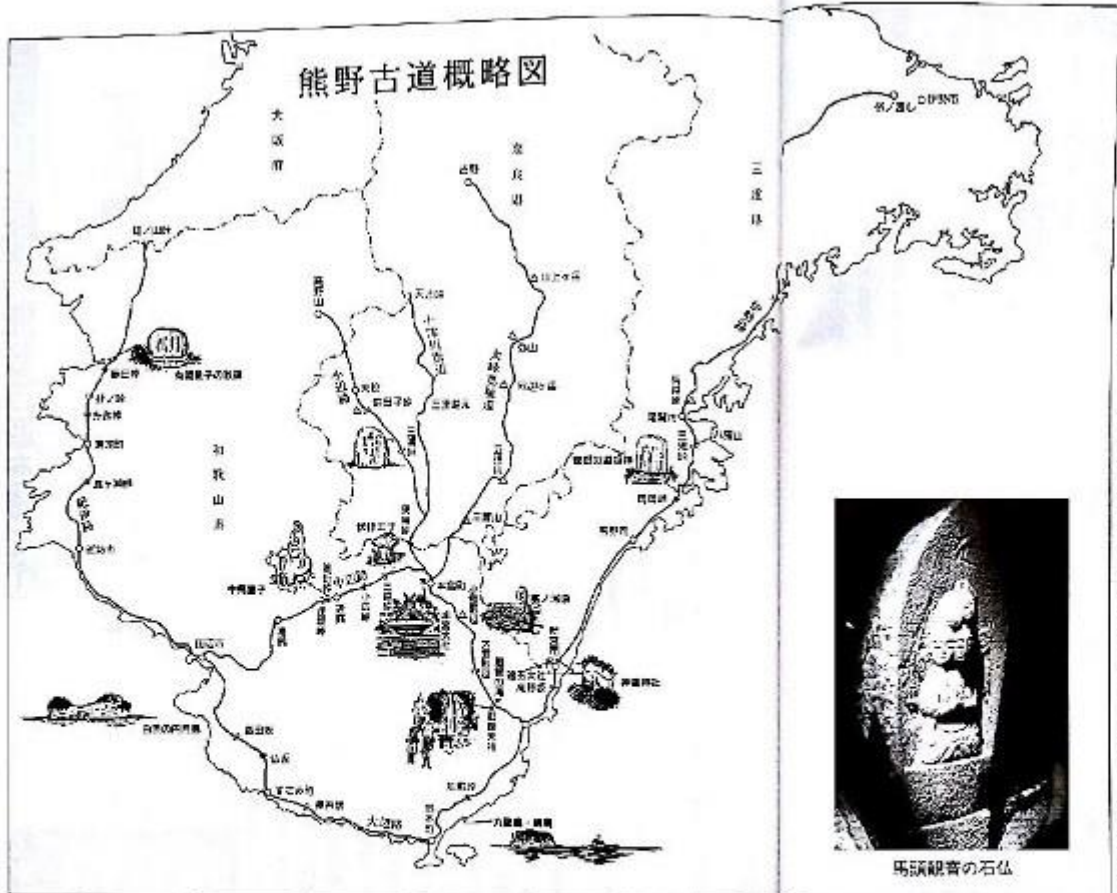
以後、熊野は次第に勢力を失っていった。しかし、江戸期に入った元禄五年(二六一九)、紀伊藩主徳川頼宣が熊野三山の復興に意を用い、社寺の修復や駅制の整備などに力を注ぐことにより、峠の熊野詣で、と言われる最盛期を迎えることとなった。

熊野古道の内で、伊勢から八咫山越えを経て熊野に通じる東熊野街道(伊勢路)と、京都から滝川を下り、紀伊半島を南下する西熊野街道(紀伊路)は東西から熊野三山に入る信仰道の軸となり、『宇治十景』に「熊野へまいるには、紀路と伊勢路の」とれ近し、とれ遠し、広大慈悲の道なれば、紀路も、伊勢路も、遠からず」と詠まれている。

熊野への道としては、この二つの他に、田辺から中辺路を辿らずに瀬根峠に沿った大辺路ルート、高野山から、まっすぐ南下して東熊野街道を越えて本宮に入る小辺路ルート、大和・五条から天社峠を越えて十津川谷いを南下する十津川街道、古野から大峰山脈、いわゆる七十五をひきの行をつみながら大峰山脈を縦断する行者街道などがある。しかし、普通には熊野三山と聞えば、や



馬頭観音の石仏



はり京都からの、そして大坂、薩摩三子にはじまる九十九王子が点々としている紀伊路ということになる。

古道は文化の根柢をなすもの、いや、その文化そのものである。そこに生活する人たちの汗と涙の思いの残月がにじみ込んでいる。去から練へ、村から村へ、今更こうした熊野古道を歩いてみたいと思っている人に、少しでも役立てばと思い、ハイキングコースガイドとしての筆感を試みた。そのため、熊野には熊野十道といいたい部分もあつかうが、容易に誤解されたい。今年一年間、山歩きを目的にした熊野への道(大峰山脈以外)を、6回に分けて紹介することにする。今年には紀伊半島熊野詣で浴衣の熊野山神社を起点に藤原白峰、押の峯、赤坂峠、鹿ヶ嶺の紅葉と四コースを紹介する。

藤白神社から藤白峠越え

JR海部駅前の日田道を南に進み、日方川にかかると、日田下バス停に着く。

すぐ先の四ツ辻を左折して、踏切を渡ると熊野一の鳥居跡を示す道標の立つ熊野古道の三差路に出会う。古道に沿って右に300mほど歩くと、藤白鳥居跡の跡がある。往昔、熊野本宮を参詣したところとされる。これより間をおかずして右手に全国の鈴木姓の本家と稱われる鈴木屋敷、藤白王子社が続いている。王子とは、熊野権現の末社のことだ。上皇や女院の随従の人々がここで休息し、そしてまた熊野への道を進んでいったという場所。

藤白神社正面の鳥居をくぐった左側に熊野一の鳥居の文字が深く刻まれた石碑があり、まさに熊野への玄関口。藤白の名は「紀伊熊野土語」に「フジが多く咲き、しかも花の白さは類無し」というところから起ったといわれる。この王子社は藤白神社として、九十

九文字の中でも特に格式の高い五体王子のひとつである。当時、熊野の道標に守られてすこやかに育つようにと、わが子に「熊・楠・藤」の字をいいただき、名付けたと言われる。

世界的な博物学者として知られる、南方熊楠は、ここで由緒ある二字を授かっている。藤白神社を出て、民家の中を300mほど進むと藤白表にさしかかる。右手の生け垣に皇位継承の争いの権威となった紀州の熊鷹に果てた若きプリンス有間皇子の墓があり、隣には万葉集の有名な歌碑も添えられている。

江戸元禄の頃、この藤白表には寛政かきがあり、里程をごまかして旅人に高い駕籠賃を要求していた。そこで、里程を分かりやすくするために、一丁毎に地蔵を据えることとなった。この藤白表の入り口には当時から現存する四体の目と、一丁地蔵が歴史を見据えるようにひっそりと祀られている。ここから藤

藤白神社



まで、十八体の可愛らしい地蔵と地蔵母が、私たちを案内してくれる。

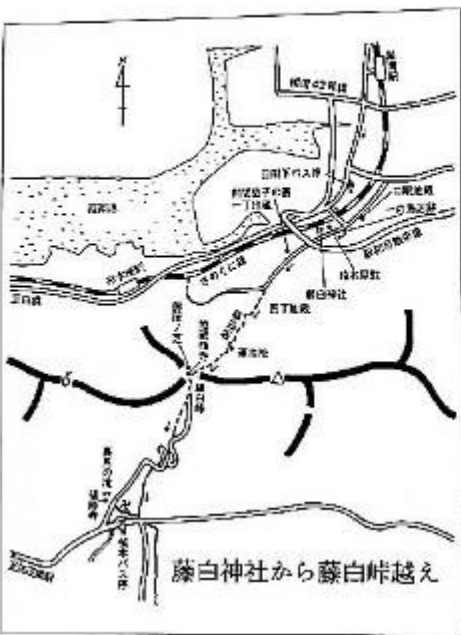
舗装された熊鷹道を進み、四丁地蔵の分岐で左上の山道に入ると、ジクザクの登りとなり、もう深い土道のためたすまいとなる。八丁地蔵を見送ると、右眼下にミカン・ビワの地が谷をうめ、その間にはあまりの海賢色にすばらしさに幾人かが歌を詠んだという名高の洞、黒牛池が広がっている。藤白表の中腹には、平安期の面工、巨勢金剛が熊野権現の化身である童子と給比べをせして、恨心を成められ、給比べを投げたところ伝説の地、熊鷹松もある。

これより竹林の急坂を10分ほど登り詰ると藤三峠で、一坪の地蔵さんと呼ばれる高さ3mにも及ぶ二石造りの行仏を安置する地蔵尊寺の本堂が建っている。また地蔵尊寺の裏の滝と呼ばれる珍しい滝もある。



手を少し登ると「この地、熊野第一の美事なり」と「紀伊国名所図」の言葉のままに、眼下に名高の洞、黒牛池、津、紀伊水道をは

さんで四国までの大パノラマが眺めできる洞所の芝に香く。現在では黒海湾の地立地の発着所や鉄鋼関係の工場群が日に飛び込み、時代の変遷が伝わってくる。



やがて熊鷹道に出る手前に、昔屋山熊鷹道を示す石標が祀られており、右に細い路地を入ると、藤本王子跡のある阿弥院寺。さらに進むと、藤白鳥居跡へといく。藤白手は板と土版の調子が美しい守で、本堂の横手に、表裏

- ◇ ハコースタイル
- ◇ JR大王子駅(阪和線・きのくに線)1時間15分
- ◇ JR海部駅(90分) 藤白神社(5分) 有間皇子の墓(10分) 生駒坂(10分) 藤白峠(30分) 阿弥院寺(5分) 福勝寺(10分) 橋本バス停(バス20分) JR加茂駅(きのくに線・阪和線)1時間10分 JR大王子駅(北参道) 2万5千1海部
- ◇ 問い合わせ
- ◇ JR加茂駅 0734(02) 2039
- ◇ 下津町観光協会 0734(02) 1212
- ◇ アドバイス
- ◇ 健脚コースとして計画する場合、本コースに「梓の峠から藤白」コースをアラスすることもできる。
- ◇ 橋本からJR加茂駅間のバスは一日3便



(完備) 弘治(完備)

拝の峠から蕪坂

かみらざか

橋本バス停下車。加茂川に架かる第一橋木橋の直前を右折すると、支流市坪川沿いの道に入る。スリパチの底のように山に取り囲まれた加茂谷、約500mほどで右手に森があり、朽木と鳥居が一段と高く仰がれ、所表王子跡のある橋本神社に立寄る。橋の神、匠守の神を祀る。橋はみかんの古名で、垂仁天皇の時代、田邊守が世の面から不老長寿の薬と言われる「非時香菓」を持ち帰ったのが、紀州みかんの発祥とされている。

再び、民家が続く川沿いのなだらかな坂道を30分も歩けば市坪。宮高橋の手前、右手に山路王子神社、一の堂王子跡がある。秋祭りには無事の成長を祈るといふ赤いふんどしを締めた幼児の取り廻みが行われる名物行事「泣き相成」の土俵もある。市坪を過ぎ、家並が途切れると、もう人影もなく、みかん畑の間をゆるやかな登りとなる。市坪川の水直

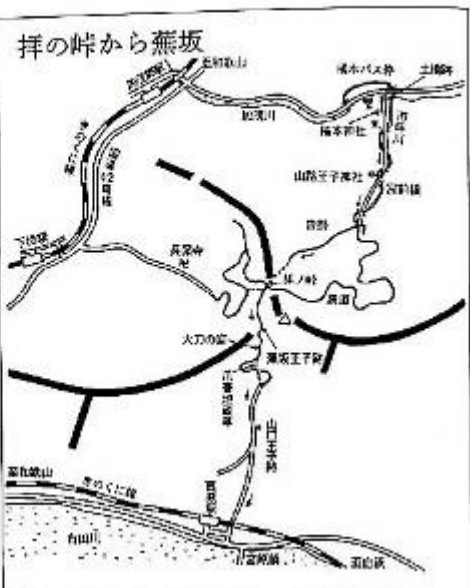
も少なくなり、ゆるやかな道も後しばらく、下本掛の集落に入ると古道は急勾配の坂道となり、崖を登り抜けた古道と台間、上本掛の集落を通り抜ける。みかん畑が段々と連なり、ようやく峠の生い茂った山道となる。右手に頂上峰を見ようとする登りつめると、東西にパイロン、遊道が通じる拝の峠に出る。左手に約20分、左に切れ込む道が熊野古道である。

しばらくは白倉山の西側山腹を歩く水手道で、右手前方には、和歌山県内一の泉源、下津浦が手の届くような広がりを見せ、松道に歩を進める。途中、下津浦最古の供養塔三葉徳本上人の名号石、石地蔵が並び、住持を偲ばせている。海草・有田の郡界を越えようと、左手に蕪坂王子跡の小祠が祀られている。これより古道は農道と交差しながら、最短距離を南下する。所々古道として分りにくい箇所もあるが、ともかく細い方の急坂の道を速



ぶとよい。宮原は全国有数のみかん生産地で、5月のみかんの花咲く頃には、あたかも花のトンネル。甘酸っぱい香りが迎り一面に深い、まるで桃源郷を思わせる。そして11月、12月の収穫の時期には、色づいたみかんが木盛に照らされ、まばゆくも感じられる。眼下には有田川、すなわち紀伊水道の海面に鳥影が写っている。

水刀の音を過ぎると、弘法大師瓜書地蔵で



知られる金剛寺がある。弘法大師が阿修陀尊と地蔵尊の二体を線刻したと言われる4片余りの自然石が祀られている。樹林の間から鹿鳴が聞け、右田川を目指して、なおも急坂を下る。坂を下り終えた谷間に山口王子跡の小祠が祀られている。しばらく行くと道が二分、左に古道を選び民家の間を直進、踏切を渡ってすぐ右に1400



瓜書地蔵

▲コースタイム▼
 JR天王寺駅(阪和線・きのくに線)1時間23分
 JR加茂駅(バスで20分) 橋本バス停(10分) 橋本神社(20分) 山路王子神社(50分) 拝の峠(15分) 蕪坂王子跡(15分) 瓜書地蔵(20分) 山口王子跡(20分) JR宮原駅(きのくに線・阪和線)1時間40分 JR大玉寺駅

茶 通信販売

くつろぎとやすらぎのティタイムには、やっぱりお茶が、ティバックが便利です。山へお持ちください。ご家庭でもどうぞ。

1. 煎茶	58	全品1箱(2)直営店	
2. ほうじ茶	38	どれでも100P入	
3. 玄米茶	48	100P 2500円 全品110円	送料450円(別)
4. ワードン茶	58	200P 5000円 全品100円	送料450円(別)
		300P 7500円 全品100円	送料450円(別)

●煎茶は、産地別のこだわりがあります。
 ●代金引当金(送料別)で送料が安くなります。
 ●お茶は、お茶の王様(煎茶)の味を味わってください。
 ●煎茶は、お茶の王様(煎茶)の味を味わってください。

茶 専門店 いっぽん

TEL: 073-421-1111 FAX: 073-421-1111

◆JR加茂駅から橋本間のバスは一日3便

全地形図	2万5千	海潮・湯浅	
向い合わせ			
JR徳島駅	0734	(82)	0319
JR加茂駅	0734	(92)	2039
下津浦駅前	0734	(92)	1212
市坪駅前	0734	(82)	4111

◆熊野古道として計画する場合は、本コースに「藤白神社から藤白峠」コースをプラスすることもできる。

得生寺から糸我峠

JR宮原駅下車。左折れして、有田川の堤防にでる。有田川を挟んで川向いに万葉集に多く詠まれた糸我の山が横たわっている。宮原橋を左手に国道を少しして、宮原渡し場跡がある。ここでは宮原橋を渡って糸我に向かう。右田川の堤防沿いに東へと向かい、500mほどで右に折れ、国道を横断すると、すぐ右側に中将姫伝説で知られる得生寺に着く。

天平の昔、藤原成成の娘、中将姫がまだ十五歳にもならぬ頃、継母の妬みによって、奈良の都から捨てられたのが、ここ紀州糸我の築紫山。継母は伊勢春時に命じて姫を殺せしように企てたところ、春時は姫が一心に写経する姿に感打たれ、刀を捨て、出家して得生と改め、当寺を建てて姫を庇護したと伝えられている。

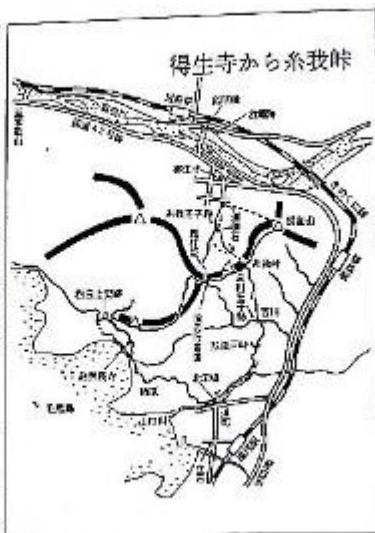
得生寺境内には、本堂・開山堂・庫裏などがあり、開山堂には、中将姫の彫像と得生・

妙生夫妻の座像がそれぞれ安置されている。毎年5月13日、14日の末社会式には香盤面を焼いた二十五菩薩の焼り供養が盛大に行われ、その模様は有吉佐和子の小説「百田川」に「雅なところの有田川、水の流れば千守唄、小木も育つて糸我の祭り」と記述されている。

得生寺の南方には糸我の山が横たわり、足代道を経て、糸我の山の標花。散らすあらなむ遠よりくるまこと」と詠った万葉歌碑が寺の南すみ、桜の木に囲まれて立てられ、隣には熊野古道の一里塚も残されている。

十字路を南下、次の辻の手前右角に稲荷社がある。また、この辻の左すみに「すく熊野の道」と深く刻まれた石の道標が立っている。「すく」は「まっすく」の意味で、十字路を直進、すぐ左手に、「ひばり山道」の道標がある。右側の山が中将姫ゆかりの築紫山で、山

が二分し、現在の糸我峠越え以前に利用したとされる古坂尾の迹と、万葉人が酒原白神磯に出て、船で日高の白馬に渡ったと言われる鹿打坂の迹が分岐する。古坂尾は、みかん畑の關が著しく、かつての古道歩きにくことは



糸我王子跡前の遺標石

険しい。鹿打坂は、藪の生え込む小道に在り、糸我の山を越えており、峠には彼の行者像が祀られている。

既をもとに戻そう。「左、くまの道の道標石に従って左折すると、記紀国志賀郡宮原に「峠まで十四町許」とある糸我峠への登りにかかる。登るほどに扇形の景観が開け、背後はみかん畑が谷を埋め、有田川の流れる陽光に輝いて見える。

登りきると糸我峠で、みかん畑の中にかつての茶屋跡がある。隣りもよく、熊野詣で住来の恰好の休憩地として築えた。湯治湯や湯殿の町並みと照らしあみながら百川に下るとしよう。十字路に出て、右に折れた右側に大きな椎の老樹に囲まれた有田王子跡の社殿がある。熊野古道は十字路を南進、アスファルト道となった万葉山峠を越え、山田川にかかる北米橋、かつての源氏橋を渡り、湯治湯を横断すると、昔ながらの熊野詣の家並みが続く道町通りとなる。「すく」の道を越すと右の道標を左折すると湯治湯はすぐのところと

糸我峠付近から橋原を望む



頂付近には替替代わりに使ったという写経の岩をはじめ、行場歌、経の類、親子対面石等の史跡が残されている。

築紫山西麓の古道を下す。しばらくして、「左、くまの道、右、すはら道」と深く刻まれた道標石の立つ道分に着く。すぐ左のみかん畑が糸我王子跡で、これより左に道をとり、糸我峠越えにかかる。

ところで、右手すはら道をとると、再び道

なる。

△コースタイム▽

- △JR天王寺駅、阪和線・きのくに線1時間40分
- △JR宮原駅(30分)得生寺(20分)糸我王子跡(30分)糸我峠(20分)有田王子跡(50分)北米橋(10分)JR湯治湯駅(きのくに線・阪和線)時間45分
- △JR天王寺駅(換形図) 2万5千歩(湯治湯)
- △ゆい合わせ▽
- 有田市観光協会 07337 (88) 1111
- 湯治湯観光協会 07337 (88) 2525
- 御坊南海バス 07338 (88) 1020
- JR宮原駅 07337 (88) 7041
- JR湯治湯駅 07334 (82) 2325
- △ナビース▽
- ◇ 国道筋には御坊南海バスが運行している。
- ◇ 熊野古道の築紫山登山口から、山頂へは往復約1時間が必要。また、頂上から熊野詣の山頂に下ることできる。築紫山からの眺望もよい。
- ◇ 糸我峠の分岐から鹿打坂を登り、橋原に出ることもできるが、湯治湯がいたるところで交差するため、読図力が必要。

(見導 弘幸)

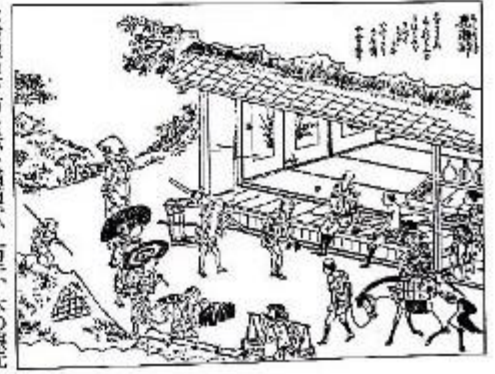
井関から鹿ヶ瀬峠越え

井関バス停下車。国道42号線を南下、国道を右手に見送り旧街道を進む。広川に架かる河瀬橋を渡り、さらに河瀬の橋流に架かる橋を渡ると、小さな森が正面に見える。ここに河瀬王子跡を示す石垣が残され、隣の民家の門前に、「石ハきみいでら 大木にはひだりへ」の道標石がひっそりと立つ。南の方から見て、このまま北に向かう道が熊野古道で、大木の際には広川が流れ、左の山手の方に迂回をやむなくされた事がうかがえる。

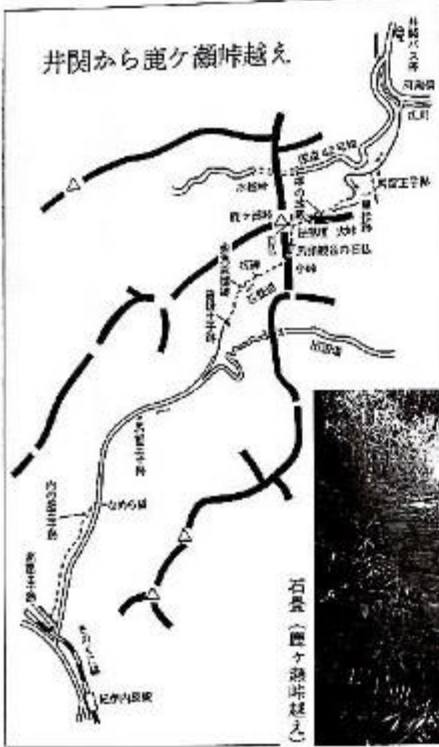
谷に沿って、登り坂をゆるやかに南下する。左手傍らに馬留王子跡の石碑が立つ。「紀伊国名所別会」に「上辺より坂道險絶にして馬上にてはいきがたし、御幸の時此所に馬を留められしといふ、故に馬留の名あり」と記された所で、人々はここで馬を留め、五腕の緒を締め直してから登ったという。すくなく、「石くまの道 左 ぶじたき」と

刻まれた道標石のある道分岐で、右に道を譲り、右手、谷を隔てた上部に国道42号線を望みながら歩を進める。再び道が一分、左に大きくカーブする道をとる。この地点が鹿ヶ瀬峠への登り口となる。

いよいよ「シシノセ山をよち昇る」と「御幸記」に書かれた鹿ヶ瀬峠越えの登りにかかる。みかん畑の中、シダザグの急登となり、国道42号線が下方に見えくると、所々に石壁が残る原で再び古道となり、しばし古道の雰囲気に入りながら一歩一歩登を進める。ほどなく一田松崎、時の地蔵尊、法蓮岩と続き、椎の大木のある鹿ヶ瀬峠の大峠に登り着く。鹿ヶ瀬峠と標高であることを示す石垣が所々に残されているが、木材採出の基地として大きく切り開かれている。峠を越え、すぐ右手に小道を登ると、石仏神を祀え、すぐ右手に小道を登ると、石仏神、鹿ヶ瀬城跡がある。峠に戻り、小峠まで



は後縁の下方を流る横道で、右手、木の根元にはまづられた馬留跡を見渡ると、有田・日高の郡界、道標石家の配られる小峠に着く。茶屋跡を示す石垣が残っている。ここからは正面「原谷へ」と下る。昔、藤原定家をして「屋敷の結垣」と嘆かせた鹿ヶ瀬峠越えは、今もなお山険しく、これより500メートルの間に、熊野古道の現存する最長の石垣道として日高町の文化財に指定されている。付近は黒竹が生



い茂る昔ながらの道筋となっている。水田の見えを辿り下ると、右手に数連の板碑が並び、更にその先には江戸時代の茶屋の家柄をそのまま残す金魚茶屋跡がある。平坦になった道をしばらく進むと、左手みかん畑の中に河瀬王子跡の石碑が見出される。この辺りは河瀬の特産地として知られる。歩を進めて旧街道に合流し、古街道は旧街道と交差、平野しながら西川沿いの道となる。昔時王子跡から20分余り、馬留王子跡の石碑と説

明板を立てられたところに着く。昔は東の馬留と目われ、有田側の西の馬留と相対していたものらしい。しばらくして、田圃道に接するなめらかな道とに替く、標高に従って橋を渡り、左手のあぜ道へ足を踏み込むと、山を仰ぐように河瀬王子跡の石碑がひっそりとたたずんでいる。



石垣（鹿ヶ瀬峠越え）

この後、古道はあぜ道を辿り、西川の右手に沿って民家の間を直進、突き当たりの熊野古道路を左に、王子橋の手前を右に折れると高家王子跡のある内原王子神社に着く。「熊野古道案内」に「熊野古道は熊野をうち下り、鹿ヶ瀬山を越えて、高家の王子を伏し拝み」とあるところ。内原王子神社の社歴は相当古く、昔出縁の榎木の茂る境内に、塔垣をめぐらした本殿と拝殿が建つ。これより西川に架かる王子橋を渡り、国道に出ると紀伊内原駅まではもうすぐとなる。

- △コースタイム▽
 - 1 R 天守寺駅 鹿和線・きのくに線 1時間45分
 - 1 R 湯浅駅 (バス10分) 井関バス停 (20分)
 - 井関王子跡 (20分) 河瀬王子跡 (1時間)
 - 鹿ヶ瀬峠 (20分) 小峠 (40分) 金魚茶屋跡 (20分)
 - 馬留王子跡 (20分) 河瀬王子跡 (25分)
 - 内河瀬王子跡 (40分) 河瀬王子跡 (15分)
 - 1 R 紀伊内原駅 (きのくに線・阪和線と時間)
 - 1 R 天守寺駅
- △問い合わせ先▽
- 湯浅町観光協会 07337 22225
 - 紀伊熊野バス 07338 22188
 - 1 R 湯浅駅 07334 22022
- 1 R 湯浅駅 (15分)

近世の伊勢街道ハイク ①

伊勢本街道

—— 榎原町から奥宇陀へ ——

中村 敏文

近世大阪の伊勢本街道は行旅には三進の二軒茶屋から吧、越前見物寺を余計町に向かい、上野道を下りて慈願寺で分けて初野道に入り、長谷寺に参詣し、萩原道で六軒茶屋の参詣街道にいたる「あを越え道」を本流として、神宮へは長谷寺で結ぶ石川峠・山形峠・紫取峠・銅坂、横坂を越えて田丸坂下から古川に至る「アール」の道筋が記されている。

大阪ユースホステルを中核とする「伊勢参歩道」は、年中行事として、泊三日で大阪からの本街道を踏破している。また、近鉄の二回に分けた企画、伊勢参歩本街道シリーズには2000人を越える参加者が街道にあふれていた。ハイキングに適した本街道といえ、石川峠等の山坂道の多い横原町榎原町から奥宇陀にいたるコースが、今に残る近世の「お伊勢参り」を数古できる道である。

萩原・高井間、は国道369号になるの

で、萩原駅で時價のバスで高井まで来てもよいが、車の行き来が少ないので宇陀川・内牧川沿いの田道を足慣しに歩くのもよい。

「石川峠」は「あを越え道」の道の教の立つ萩原宿の「あぶらや」前から奥成神社に詣で、国道に入ると奥成神社の在来道橋まで20分。御拝社社をへて自前の参詣者接待所（不動堂）前を通って、物々神橋から旧国道へ入ると高井の辻（高井バス停）で、萩原の辻から一里（4.2）の行程である。

高井の辻で右に松降寺への町道が本街道の旧道で、御杖村の曲廻、桃原の若狭社まで約四里（16.4）は峠越えの旧道が残っている。宝生橋園を玄園に掲げた宮下家の手前から宝生寺表参道が、宮下寺南門の仏像寺へと分岐している。

宮下家前から坂道を上りつめると大和棟の松本家近世の蔵、大和窓がある。屋敷跡が

点在する旧道は高井の千本杉を過ぎると、元旅館大津屋であった二百年は経つ立派な大和棟の跡地がある。津原社には赤坂甲地区の集会所があって、「右いせ道」の遺構と題して、歌んだ万葉歌碑がある。

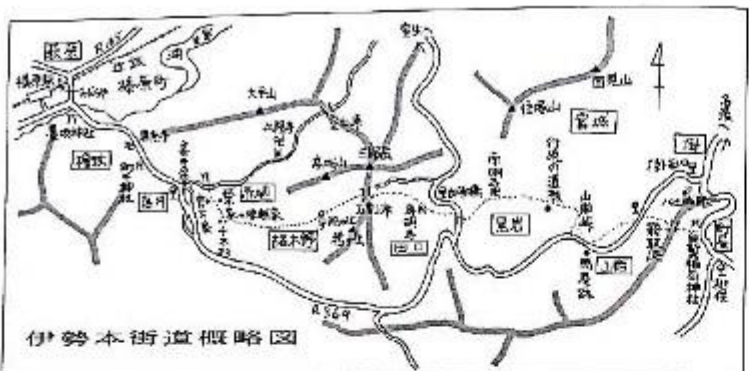
志願から大久保への旧道は新しく町道ができたので通行止めになったが、わずかに四軒になった大久保から紫木野へは旧道が生きている。



旧旅館 大和屋 (高井の松本家)

石川峠口の御木野は、九軒の旅館と遊女を置いた番屋であった旧道で、井原屋地には北島氏に組み立てられた御木野と題した御木野の名字、壁木野三郎の五輪塔などがある。壁木野社下から峠道に入ると、若狭跡が残る宇太・松山への分岐点にあたる宇太・松山をへて石川峠に響く。

見晴らしのきれいな石川峠には伊勢参歩道の分岐「伊勢本街道」石川峠 六九五米南明寺まで三五分と、海坂と田口宿への時間が表示されている。峠を越え下ると宝生寺への分岐路に「右いせ 左原山」の遺構がある。戻ほまっすぐに細い山道を下ると田口へである。



田口宿に榎井家の前から旧家吉原家の左手を回って直明寺へであるのが旧道で、上山口驛地の左手を通って宝生川筋の峠道下降り、坂園橋を渡って2000歩も行く不動堂がある。お伊勢参歩道の山坂道の多い横原町榎原町から奥宇陀にいたるコースが、今に残る近世の「お伊勢参り」を数古できる道である。

現在地 初詣の参詣 宮川まで

長谷寺参詣道	三六一	二二里半
赤坂の大久保宿	三三三	一八里
黒岩の宮城分岐	五五	一六里
山形峠の西山家	六四	なし
宮野の平田家	八四	一五里
神木の坂田峠の上	九三	一三二里二一

宮城への分岐点から山形峠へは、細い山道石川の右側の1.5kmほどの山道を直進する。1.5kmほど行くと大きく左へ回って林道へ通じる道を分岐するが、右へ入ると、お伊勢参歩道を上がりきると山形峠にたどり着く。峠までは味茶茶屋があったようで、山形峠の杉山の中の本道跡の広い平地がある。

山形峠とは山形峠で分かれ、谷川沿いに下ると中野宿で、峠道の中に不動堂が祀られてあ

る佐田の宿跡へであるのが旧道である。一部分が修道になっていたので井関の下で林道にでて、左へ坂を少しあがり、谷川の左側に通じる野道を辿って国道369号へ下る。根拠から続く旧道を行くと、榎井家の跡に元伊勢街道、旧国屋座敷跡の石垣が立っている。山形宿の本街道は旧道の更変などで分かれ、山形宿の左側の草光寺前から小中学校のほうへである。若狭跡を左手に通って、川を渡って旧道へである。山形東バス停付近に採取峠へ上がる旧道がある。三軒の石垣が並んでいて、三軒の六子名戸碑といせせららるる」と刻んである。天明火神を奉じた徳命が馬の鞍を成られたという急坂の横取跡は、まっぴい勾配の一本道であるが、30分足らずで横取の若狭へ通じる。横取の宿は白雲橋南大門神から陣地橋まで、三軒の旅館があったが、昭和初期の大火で宿場の面影をなくしている。横取バス停から横取峠へは15時のバスを外すとないの、国道をへたら来て、海西口バス停から名取へであるとい。時間の都合では横取峠を過ぎ、山形峠バス停から旧道へ1.5kmほど行くと田口バス停へである。奥成神社と横原園のバスは1日3便だが、掛西口から名取へは1時間毎に走っている。

(参考) 山形・横原は距離20・22km

平石峠から屯鶴峰へ

松永恵一

んだという。

お正月遊び
「もういくつ寝るとお正月 お正月には風
上げて独楽を回して遊びましよ……」
お正月は冬休みと重なって子どもたちにも
楽しみが多い時。今の子どもたちは室内で遊
ぶことが多いが、昔は寒さに強くなるように、
子どもは風の子と愛称し、戸外遊びがたくさ
んあった。

男の子は凧上げ、竹馬。
女の子は羽子つき。

竹馬は鎌倉時代に笹の葉のついた竹に手綱
をつけて、漕代わりにまたがって遊んだのが
始まり。

羽子つきは室町時代に病魔を払うための遊
びから始まった。羽子は病気を通ぶ蚊をかた
どつたもので、これを羽子板で追い払って遊

んだという。
室内遊びには知性を育てるものが多い。双
六は数を覚え、いろはがるたは知識をふやす。
子供たちはいつも創造の神。知恵をしぼっ
た面白い遊びがいろいろあった。
子どもを怒らしたと、実にさまざま
な遊びがある。たとえば……

・ビー玉、ペーゴマ、メンコ。陣取り。馬
とび。ちゃんばら。竹馬。竹とんぼ。すもも
かんざり。鬼ごっこ。石けり。ゴムとび。
さがりがないからこれで止すが、日が暮れる
のも忘れて、真心に遊びほうけたものだった。
ウオークマンとゲームボーイを持って戸外
遊びを楽しんでみませんか。
「原っぱや路地裏からこどもたちの声が聞
こえてくる……」

恋劇の大津皇子が永眠る二上山の春色



大津皇子

大津皇子は大武天皇の第三皇子。養父蘇我
で、ものごとくにたわらず、身分をこえて人
に接するという人柄は、言はれた人望があつた。
太政大臣となつたが、皇位継承争闘の矢面に
たたされた。天武天皇崩御の後、皇后(持統
天皇)は、わが子大津皇子に天皇の位を継が
せるため、大津皇子に謀反の企てありとして
捕え、その翌日(朱鳥元年(686)十月三日)

に高野原の舎で自害させた。時に二十四歳。

大津皇子、横死ししめらるる時、養父の池
の波にして物を流して作りましし御歌一首
ももつたふ、養父の池に、鳴く鴨を

今日のみ見てや、養父の池に、
養父の池に鳴く鴨を見ることも今日限りと
して、私は死んで行くことであろうか。
限りなく死んで行く一首である。巻に託して現
世との別離を詠っている。

「養父の池」の跡は香具山の東や北寄り
にあたる池之内、池尻(現在桜井市)のあた
りであろうといわれる。

この時に賦した五言絶句が「横風賦」に伝
えられている。

余昔遊西宮 金馬 西宮に遊み
秋雁催短命 秋雁 短命を催す
泉流無主 泉流 主無し
此夕誰家向 此の夕 誰が家に向かふ
日は誰家向 此の夕 誰が家に向かふ
時刻を告げる大鼓の音は、われの短い命を
いつそうせきき立てる。
迎えてくれる主人もない黄泉路のひとり旅
今宵このわれいすこに宿るやら。
この歌と時には、強いられた死に臨んで沈

着、たじろぐことのないますらおの剛毅の心
情が、感傷に流れることなく吐露されている。
その底には無念の思いが流れていて、読む者
の心を強く打つ。

この時、妃の山邊宮女(大智天皇皇女)が、
祭を犯し、髪を解き乱し、はだしとなつて
走って皇子の後を追ひ殉死された。見る者
はみなすすり泣いた。

妃皇女(山邊)髪を解いて徒路にして奔り
赴きて殉死。見る者は皆泣く。

と、日本書紀持統天皇紀には伝えている。想像
を絶した悲劇な場面である。その光景が目の
あたりに見えるようになった。これを感じこの歌を
詠む、何びとも深き心をええなむ。

大津皇子の屍を遷葬の二上山に移し葬る時、
大津皇女の哀しげ傷む御歌

うつそみの、人にあるわれや 明日よりは
二上山を 弟世とわが見む

この世の人である私は、明日からはこの二
上山(弟の大津皇子を葬った山)を弟と思っ
てながめよう。

遺骸の頂上に、悲劇の主人公、大津皇子の
墓がある。この歌は、皇子が死を賜った後、
この山を弟の墓として眺めようという、大津
の姉大津皇女の嘆きの歌である。

「風の王国」の舞台

「した、した、した。耳に伝ふるやうに來
るのは、水の垂れる音か。たな流りつくやう
な暗闇の中で、おのづと靴と靴が離れてくる」
これは折口信夫が大津皇子を詠じた「死者の
宮」の冒頭を節する文の一端である。

「一つ小さい作品のまへに付んである。見
慣れた作品の中で初めて眼に止つた一つの作
品であつた。晩秋のなほ心細く渡れた夕暮
ゆるか、その作品は私を感傷させた。それは
何と哀愁に匂ふ作品であらう。大津皇子像と
の説明をつけた、神像形の小さい、全く小
さい作品であつた。」
また最近では五木寛之が「風の王国」の舞台
に二上山を登場させた。

「葛城山がその裾野を北に沈めようとするあ
たりに、奥如として隆起する異様な二つの峰
がある。それが二上山だ。その南麓の峰を越
える山道には、かつて竹内道とか、当麻治と
か、いくつかのルートがあつた。いまはクイ
マと流むが、古くはクマヤだともいう。四ッ
のはげしい土垣という意味の古語だ。その深
浅し古道の一つが大和王朝によって、竹内街
道」として再開され、国家の大動脈として
脚光をあびることになる」



二上山より見た河内平野の夕景

コース概観

今回のコースは、平石峠からダイヤモンド・トレイル(金剛葛城長距離自然歩道)を竹内峠へ進み、二上山に登り、屯鶴峰を遊び、二上山へ出る。史跡と美しい自然を訪れ、非業の最後を辿った大津皇子に思いをはせる。近鉄磐城駅で下車。線路に沿って南に歩くと長尾神社の前に出る。祭神は吉野連の祖という水光姫命と白雲児命を祀る。右に折れ

當麻町スポーツセンターの前を通り、山腰を横切ると、かなり勾配のきつい坂の側面へ古い家並が続く竹内の集落だ。奈良橋をはいめた家が、まだ多く残っている。それも太い楕円である。どっしりとした昔の宿場の風情が感じられる。集落の中程に高塚が、「野宮」紀行の著者、当地の門人千車を訪ねた所に詠んだ「綿子や露世に野宮村のおく」の句碑が、整備されて「綿子塚」として残る。

集落の西端で整備された竹内街道、国道166号線に出会う。車に気をつけながら竹内浄水場を左に貫き、上池の畔で左に進み平石峠へ向かう。のどかな田園風景の中、徐々に広がる田畑。ゆっくりと流れる小川に架かった小さな橋。目に映るひとつひとつの風物が懐かしい童話の世界そのままのようである。

多くの旅人たちの喉をうるおしてきた清水で一息入れ、深い杉木立の白、溪流の音を聞きながら登る道は、やがて立石峠へと出る。樹木に覆われて湿りがちな峠では、道標とベンチが出現してくる。

道標にしたがい右に進み滝根に取りつく。やや急な登りだが、すぐに薄やかな道になり、林道に出会う。右手の山道に入る。左前方に無縁中継塔が見える。まもなく舗装された林道に出てまっすぐ進み下ると竹内峠の国境神

の前に出る。この峠は別名「露の関」ともい、茶屋があったという。休憩をとりながら露の雨に濡れを覚したのであろうか。峠を少し下った右手(北側)に後行者御妻水の碑、元文四年(1773)の銘を持つ大きな宝篋印塔が残る。

五木夏之は「風の王国」に記す。「大和から河内へ、そして難波へとつづき、さらにそこから中国、南方、そして西域への商路にまでむすびつく。有名な正倉院の多くの宝物も、また大陸からの外交使節も、その他さまざま異国の文物や思想も、多くはこの竹内津をこえて大和へもたらされたといわれている。そして古代日本の文化はそのうえに華ひらいたといっている。」

国道を渡り急坂を登り、標林帯に入る。やがて二上山麓で「岩屋」の上に出る。岩屋峠を右に下ると仁徳寺から当麻寺への道。「岩屋」は、すぐ近くの「鹿谷寺跡」とともに、大陣の影響を受けた奈良時代の石室寺跡だ。これらの寺跡は、あとから訪ねる市鶴峰とともに古代の石切場であった。二上山から切り出された凝灰岩は、古墳の石棺となり、後には寺院の建築資材となった。

急登して難所(47.4・2.5)の頂上に出る。360度の眺望を誇る山頂は、ハイカー

の憩いの場所「おべんどう岩場」として整備された。広々とした山頂のススキの原で、先の大戦末期に、紀伊半島から大阪に進入してくる米軍機を迎え撃つために、山頂を削平し高野砲隊地を構築するために動員されたといいたのも昔語りになった。

眼前に雄岳を望みながらよく整備された石の階段をトレイルのある磐城まで下る。右は、植下 waterfall したたり岩を隔らす石泉寺への道。道沿を自指して石ころの多い道を登る。プロット梅で囲った社は、葛城山二上神社。水を司る神を祭る。古くから露の村では「露のほり」と称して、雨乞いのために登った。

「天武天皇皇子 大神皇子 二上山系」はその奥にひっそりと隠れていた。大和に時を向けた旅は、明治になって定められたという。鉄橋を渡ってまわってみよう。眺めは絶景の



平石峠から屯鶴峰付近地図

一語に尽きる。東に面すれば大和盆地、西に向かえば河内平野の全貌が、パノラマのように見下ろせる。なお雄岳山頂ではまた保存協力員として一人につき500円が必要。

再び鞍部まで戻る。道標を確かめ、二上谷から屯鶴峰へ向かう。整備された丸太の階段を下る。道の橋を小川が流れる。流れの音を深しめながら下っていくと、やがて金剛砂採石場に出る。古くから採れた砕石材として使用されてきた金剛砂が、最近では熱加工されガリネットとして送り出されているという。

近鉄線のガードをくぐり、左に折れると屯鶴峰の入口。広い階段を登る。凝灰岩が浸食されて出来た地形は、彫が群がり集まっているような形に見えたところから、屯鶴峰と名づけられたという。

北の奥にある次道所まで、凝灰岩の白と

木々の緑のコントラストを羨しみ、ゆっくり遊びながら行ってみよう。峠道は入口まで戻り、左に進み国道165号線に出て、右に降り近鉄南大阪線の二上山駅に出る方法と、休憩所から少し戻り、左に向かつて急坂を下り国道166号線に出て左へ行き、国道を渡り右折れし香の緑台公園に到着する道に入り、最初の分岐を左に進み松蔭女子短期大学を左にとり、近鉄大阪線開成駅に出る方法がある。ハコースタイム▼

近鉄同徳橋駅(乗車約45分)→近鉄磐城駅(20分) 綿子塚(1時間10分) 平石峠(1時間) 竹内峠(20分) 岩屋峠(15分) 雄岳(20分) 雄岳(10分) 鞍部(20分) 塚石(20分) 前曲峠入口(20分) 休憩所(1時間) 山崎峠入口(45分) 近鉄二上山駅(乗車40分)→近鉄阿倍野駅(乗車約30分) 近鉄開成駅(乗車約40分) 近鉄上本町駅

費用

近鉄同徳橋駅→磐城駅	480円
近鉄二上山駅→阿倍野駅	430円
近鉄開成駅→上本町駅	510円
地形図	2,500円 大和高原
筒い合わせ	
当麻町役場観光課	0744548・2811
香取町役場観光課	074457(6)20001

新春の山

特選 コースガイド

- ① 入道ヶ岳
- ② 獅子ヶ岳
- ③ 綿向山・水無山
- ④ 明神平から薊岳

キスバートの世界で、冬眠たちが歩くのは、それよりちょっと下の、低い山だ。灰色の木立に覆われてまるで眠っているような、何ら姿容のない山だ。今は、じっと春の訪れを待



冬の山・雑感

大気の澄んだ冬の日、遠方の山々を望む。高い山は、真っ白に輝きその頂を呼んでいる。氷舌に覆われているであろうそんな山は、エ

つついている山々だ。
日頃、山行を兼ねていると、いつしか冷たい風にも慣れてきて、そんなに寒さを感じない。かといって、急坂を登っても汗はかかないし、いつもの疲れも感じない。いつのまにか時に登りついてしまう。しかし、あれほど賑っていた時には人がいない。指だけか北風に揺れながら、冬の音を聞かされてくれる。葉の落ちた林では、明るい太陽の光が大地を暖めている。かすかに落ち葉が匂ってくるようだ。そんな林の中、日だまりを見つけて少人数のパーティが休んでいる。急ぐでなし、どこへ行くのかははっきりしない気ままなハイキングのように見える。コンロを用意して何か温かいものを作っている。コッヘルから白い湯気が立っている。声をかけないでそっと通り過ぎる。
時折、小雪が舞うが、積もることもなく、いつしかまた太陽が顔を出し、すぐには融かしてしまふ。
行けども行けども人に出会わない。いつもの展望台で休憩していても、誰も追いついてこない。みんな今頃どうしてののだろうか。こんなにもものんびりと歩けるのに……こんな山歩きを冬の「一口たまりハイイク」というのだろうか。いいものである。

たのしい山歩き

尾瀬雑考⑭

「燧裏林道」

松下 満

尾瀬への年間入山者は、50万人とも60万人とも言われていますが、そのほとんどが沼山峠・尾瀬湖、湯釜峠・尾瀬ヶ原の往復口廻りか、山小屋利用で沼山峠または大清水・尾瀬湖・尾瀬ヶ原・鳴神峠のコース、あるいはこの逆コースである。

今回は秋の風情でもあまり知られていない私のお勧めコース「燧裏林道」を紹介いたします。旅行社の募集ツアーでは、ほとんど取り扱っていませんので自主ツアーとなります。時期は10月上旬が良く、2泊3日のゆつくりコースです。

第1日目、鳴神峠・尾瀬ヶ原・赤田代・三條の滝への途中、泊まりです。このコースは

御存知の方も多いと思いますが、詳細は省きます。時間に余裕があれば三條の滝へ立ち寄って下さい。

第2日目、今風のハイライト、燧裏林道を歩きます。数年前までこのコースは田代以外地帯で、雨の中雨後はドロドロで難儀しましたが、木道整備が進み非常に歩きやすくなりました。

赤田代から三條の滝へ向かい、御池への道標に沿って右へ緩急道を歩きます。このあたりは、樺、椴、杉などの原生林です。道端には、長い果柄の先に藍色の实をつけたツバメオモト、ルビーかト見紛うツルリンドウの実、真っ赤に燃えた野澤・馬津・楓の葉が、原生林を構成する木々の黄葉にマッチして実に美しい。

シロ沢を越えると、ゴゼンタチバナの群生が朱色の実をつけて我々を待っていてくれる。当たり年には朱の絨毯の感さえある。

十数年前同行した九州福岡市の婦人グループのことが思い出される。「先生、ここで野点をしましょうよ」なんと茶道具を持参していたのだ。ゴゼンタチバナの実に囲まれての洋服、よくぞ日本に生まれ残り……。

湯釜温泉への道標と別れて少時、左側に西田代を見る。このあたりまで来ると、高木は

少なく木道わきに咲いた針葉樹、ナナカマドなどが目につく。間もなくこのルート最大の遺跡、橋田代・上田代に到着。

湯釜の水は空を映して青く、草もみじは黄金色に輝く。静寂の中、聞えるのは呼吸の音のみ。ウラジココウラクの紅葉と新葉の緑のコントラストに思わずシャッターを押す。

昼食は上田代あたり、燧ヶ岳を背に眼前に広がる田代、また遠く近くに会津駒ヶ岳・大杉岳・赤田高山を望む「おにぎり」の味は最高。

階段状の田代坂を一気に下ると御池田代。他の所のものより大粒のツルコケモモの紅い実と思わず手が伸びるが、オウツトこは採取禁止だ。

大駐車場を過ぎると御池バス停、休憩所で名物「そば」を旨味、お土産には「燧そば」か「燧そば」か。ここよりバスで20分沼山峠へ、バスの直左に見える燧平の黄葉が圧巻。峠から今日の泊まり尾瀬湖へ。御池登沼山峠行きのバスは15時までの便を利用すること。

第3日目、思い思いのコースで帰路につく。

特選コースガイド

鈴鹿

小岐須溪谷・池ヶ谷から

入道ヶ岳

中級コース (★★)
小山 ひろし

入道ヶ岳(906.1m)へは普通道(南東側)の横井社から登るが、今回は南西側の小岐須溪谷からのルートを紹介したい。小岐須溪谷の家の駐車場(右側)までは車で入る。三重交通の小岐須バス停から約1.5km。日本バス停からは約3kmである。

駐車場から溪谷沿いの雑木林道を約10分ほど進むと、右手に「池ヶ谷コース登山口」の標識を見る。ここからややUターンをしながら、いきなりの急坂にとりつく。悪所には新しい標識が設置され、一本道でもあるから迷うことはない。ただし、山足のよいオーバードライスは禁物である。杉、松、雑木の入り混じった中を、左下急斜面に気を配りながら、少々スリルのトラバース道。積雪期には、ピッケル

ル杖を持参したほうがよい。約30分で小さな谷を右岸に渡り、炭焼窯の跡を見る。ここで小休止をとってもよいが、10分ほど先に「石門」と呼ばれている権好の場所がある。この石の妙は見てのお楽しみ。この辺りヤブツバキが多い。ここで谷は左に直角に曲がり、その奥にはほぼほどの滝を見る。左岸に渡って正面の鎖懸を見上げると、頭上にまた新しい小丸太小屋が見える。

石門と小屋は目と鼻の距離であるが、ゆっくり登る。小屋の内部は4.5畳の広さで四畳敷がある。屋根裏のすき間から風でも入りこむのか、白い霧であちこち汚れている。小屋を右下に左手の谷につかず降りずしばらく行くと、炭焼窯の跡にぶつかる。その奥に小滝が二つ見えている。ここで道は右直角に曲り谷を背にした急登となる。小屋から30分ほどで「入道ヶ岳」の標識の立つ小丸太小屋に着く。東西側に野登山、仙ヶ岳、宮尾指路岳の山塊が見える。10分ほどで池ヶ谷コースの分岐「左、池ヶ谷コース・右、流ヶ谷(難路)コース」の標識がある。クマ笹、マンサクが現れる。このマンサクは御在所岳辺りのそれよりグンと大きい。2月末から3月にかけて白花に先がけて咲く。この辺り「ルンルン小径」と勝手に名づける。

入道ヶ岳山頂から鎌ヶ岳方面を望む



入道ヶ岳コース分岐から15分ほどで、同様に標識のある谷を渡る。ここで充分休憩をとると、あとは頂上に向かってひたすら沢をつめる。水場としてはここが最後。登るにつれて沢はやや、30分ほどで杉と松の混生林が混生林に入る。もしかしたらこれは天然林かも知れない。入道の水脈ともいえるべきか、こういう箇所が最近めづらう少なくなった。ここから約5分ですり鉢の底風の世の原に着く。左、イワク

ラ尾根道分岐。右手、ゆるやかなスロープの先に、はじめて入道ヶ岳のピークが望める。

この最後の登りが楽そうに感じられる。10分ほどで、無くもがなの風居のたつ頂上に着く。360度の大パノラマはほぼ、東側正面に伊勢崎が広がり、知多半島が真下に近く感じられる。「遊覧」の「散居」こと神島も見え、政界にかかるとの如く、最近はずつかりと見える日が少ない。北側奥には嶺ヶ岳の雄姿。横井社から登る北尾根道のピーク、北の頭までは往復10分足らず。時間が許せば行ってみる。いざこれにしては足倉米油は追って見える。いざこれにしては足倉米油は



入道ヶ岳付近地図

たつよりとりたい。アルコールなどは抜きにして「ホイ」を神かし、クマ笹に身を沈めたいと思えてくる。

流りは、頂上からすぐ東に下っている二本松尾根道を通る。この辺りの馬酔木の群落は見事であるが、大気汚染のせいかなかなか育って来ている。その馬酔木を避けてスリップしやすい急坂をロープや木の枝を頼りに慎重に下る。30分ほどで右手に遊覧小屋を見て、やがて5分で横井社への道と小岐須道に分ける。三益路に下り立つ。

「右、尾風岩・小岐須(池ヶ谷)一の標識が立っている。神を近に背を向け10分ほど行った所で右手奥に小丸太と小滝の見える谷をまたぐ。その先で右手に踏跡を見るが、この辺りトリカブトが多い。この踏跡をまらがえて食し気味へ行くと、この辺りから所々樹林があるから要注意。この辺りから所々樹林があり、丸木橋を渡ったり小谷を何度もまたいだりするが、渡れてきている時だけに慎重を期したい。やがて見事な杉の植林帯に入り、間もなく池ヶ谷コースを右に分ける。三益路からここまでは約10分である。道は徐々に安定し、小丸太小屋の丸木橋を渡る。あとはルンルン、20分ほどで出雲峠の小岐須溪谷山

の家に着く。
平成5年3月30日 積雪の日歩く

△コースタイム▽小岐須溪谷山の家駐車場
(30分)池ヶ谷登山口(40分)遊覧小屋(40分)池ヶ谷登山口分岐(60分)入道ヶ岳(35分)精神道分岐(60分)小岐須溪谷山の家駐車場

△地形図▽2万3千1伊給
昭文社「1-65御在所・鎌ヶ岳」

会報「巒嶽」第二十号
創立二十周年 特輯号
○「伊勢志摩の見た山々」長岡正利
○「富士山頂三角点考」多摩国雄

編集 (送料別) 1000円
90年12月発行・B5判56ページ
〒615 京都市右京区嵯峨御田町
10-17 三角志野方
TEL. 075-872-8128
(申込用) 本誌の送料にて新ハイキング研究会

一等三角点研究会
第一三角点

岩上の大展望

獅子ヶ岳

中級コース(★★★)
福井 正身

新ハイキング関西版の号に「近畿の名山100」という記事が載った。南伊勢の山域では、獅子ヶ岳の名前があった。

この山域では、山頂に1等三角点があるため「正徳岳」のガイドはよく見られたのだが、それより40分程度低い獅子ヶ岳の名はほとんど知られていなかった。

地元の人々にとっては、山頂に展望塔があり狩猟なめたちを射た獅子ヶ岳のほうが親しみがあるのにと、残念に思っていたが、本誌で名山に載って頂き、嬉しく思っている。

さて、獅子ヶ岳へはJR橋原駅前のタクシーを利用して、注連指指落から奥に延びる林道終点の登山口へ直接乗りつける。登山口には「獅子ヶ岳登山道 頂上まで2

200m程」の立て札がある。

登山口からしばらくは川に沿った道で、砂防の壁がある毎にザアザアと水音を聞きながら進んで行く。途中、崖に下りてみると、透き通った水の中に、魚を見つけることも出来る。

やがて、道がゆるやかになるころ、沢を渡る水場に出る。これより上に水はないし、まず一息、休憩したい所である。

「頂上まで1433m」の標記があり、ここからは、階段の道となり、尾根をジクザクに登るやや急な道となる。

200m程の標高差をせいぜいと登りきれば獅子ヶ岳の頂上を正面に見て、小さな鞍部に出る。左へと急登する。



この部分だけは、道が分かりにくい。道が切れたなと思ったり、左側の斜面を降り越えたいと、登降は次第に山腹を左

へ左へと登き始める。白い岩が転がり、

秋の紅葉の季節には休憩に絶好の所となる。大げさな鳥居、日本庭園」と名付けられた場所である。

「頂上まで500m」の立て札がある。右側は、橋原北側の岩壁である。

展望塔の下を突へと回り込め、一之瀬への乗っ越しに出る。岩を下から目下だければ、この乗っ越しから左へ上がると良い。この展望塔が、下の展望台から見て、獅子ヶ岳と見られる大岩で、獅子ヶ岳の山名の由来となっている。

さて、岩上へは、一之瀬への下山路を左に分けて、右への登路をとってわすかである。ここまでは、ほとんど展望がなかったのと引きかえに、岩上からは北には伊勢市から津市にかけての平野と伊勢湾を眺む展望。東には、志摩半島の志摩と南勢の五ヶ所崎。南には、



太平洋、熊野灘の海。西には、奈良県境へと深く伊勢の山々が見渡せ、一日中いても飽きない大展望が広がる場所である。

山頂の三角点には西へむかずか、そして更に、尾張づたいに西へ進む。獅子ヶ岳西側の岩上にも行けるが、この獅子ヶ岳の展望岩の上で昼食するのが最高である。

南伊勢の山々の中では、やや深い位置にお



り、鹿の鳴き声はよく聞くし、西側の尾根では、実際にオスとメスの鹿、頭に出会ったこともある。いつぞやの下山路中には、鹿の物見に出くわして驚いたこともある。そんな意外な山である。

下山は、一之瀬道を下っても良いが、登降を原る方が道がしっかりしていて安全だろう。

注連指のバス停からは、伊勢市駅自転車のバスが、16時40分に出る。午後は、この一便だけだから、乗り遅れぬようにしたい。

京都・久多

女性がつづる山里の暮らし
久多木の実会 編 四六判・一九〇〇円
滋賀・福井県境に近い京都北山の奥、花笠鍾りや松上げで知られるわらびき屋根の里、久多の女性たちが自らつづった山村民俗誌記。

近江朽木の山

山本 武人著 B5判・二〇〇〇円
踏み荒らされていない自然がこんな近くにあることを知ってもらいたい——朽木山行会
約20山グラフィックガイド地図付。

ナカニシヤ出版
京都市左京区吉田二本松町2
電話 075-751-1211 〒606

※頂上から西縁へは20分(往復40分)
▲地形図 2万5千1000分 国東山
▲交通▲
松原・柳原(下見)
松原駅発で湯田を列車は9時03分発、多気乗り換え松原9時34分着のみ
新原→注連指(タクシーで20分)2500円
ことぶきタクシー

05988(5)0145
駅前でのが数が限られているので、乗客に必ず連絡をしてほしい。
注連指→伊勢市駅前(三重交通バス)
所要時間57分
三重交通伊勢線伊勢市駅05996(2)57131

霧氷の山

みずらじんたいり

あさみだ仔

明神平から薊岳

中級コース(★★★)

村田 智俊

霧氷は霧や雨の後、厳しい冷え込みによってできるもの。梢についた水霧が凍結して白い花が咲いたように見える。それが青空にキラキラと輝き、冬山風景の自然美である。

私も何度か霧氷自物にと冬山を歩いたが、明神平の霧氷に感動し、今だに忘れられない。冬の特選コースとしてご案内しよう。

登山基地は、真言野科の大又庄落である。近鉄榛原駅から大又行きを釜田野町乗り換えるの奈良交通バスが出ています。のどかな山村の風景をよみながら約1時間20分で大又につく。バス発前に並野神社がある。境内で設備を整えて出発しよう。

明神平へは、大又林道が山頂まで延びているので取りつきやすい。しかしアスファルト

道を1時間以上も歩くことになるので、服装が重要である。地図で見るといかに長く感じるが、実地に進んでみると、大又谷に沿った風情のある林道である。歩き始めて30分で左野神谷に名勝「七瀬八瀑」がある。休憩を兼ねて橋を渡り探勝路に入ってみよう。段になった見聞のある滝がある。

さらに林道をのんびりたどると、途中に「魚止の滝」や、「紅葉滝谷」と名づけられた探勝路をみる。やがて左に木橋があり、見山への高登道がついている。それを見ると右に「コドウ谷」に「新新川原古遺跡探勝の碑」がある。水溜りのタイコドウ谷をつめて薊岳にアタックしたが、途中で脱落した苦手を懐んでい

る。探勝の道はゆるやかでも、台風の谷は険しいのだらう。この碑を過ぎると林道終点である。大又バス停から約1時間30分、マイカーなら30分も乗入れれることができて、駐車スペースもあるが、今回は薊岳を回って、下山が先程の野神神社になるの費用をなさない。明神平や見山などを件復するの

であればここがよい登山になる。林道終点から山頂にさしかかると、ここで初めて明神平への道標を見る。ようやく急峻になって、幾度か谷を渡り返しながらどんどん高さを稼ぐ。左手にあしび山荘(非公開)

明神平の霧氷



を見てしばらくらくめくと曲がりくねった道になり、知事も緩やかになる。この辺りから積雪をみるだろう。振り返ると、展望が開け、すっかり葉を落とした樅木の間から、森く樅山や赤間の山々がかすんで見える。右手後方に薊岳も見えてくる。最後に直登の階段を登り明神平に飛び出る。

ここで息を飲むほどの美しい霧氷の景観に出会うだろう。誰々積もった雪原が広がって、神倉の木立は宝石のような霧氷をつけている。この区画には、アシビ植物園があつて、黒根付きの休憩所と、天理大の小屋がある。キャンプ場は風のない暖かい日なら絶好の食卓場を提供してくれる。水溜りは天理大小屋の横を通って東へ樹林の中を5分。この水場の周辺も広くて休憩に最適。温かいものでも作ってゆつくりしよう。



登りついた明神平は十字路になっていて、北は見山から伊勢辻山を通って見山へ、東に水場をなおも進めば大又谷林道へ出て青田へ続く。今日は南へ低いクマ世の中を登ってゆく。10分ほど三ツ塚への分岐に出合ふ。左へとって三ツ塚を経て直向の主稜を南下すれば、明神岳から池小屋山へのコースが延々と続く。この主稜は、冬は歩く人も稀で踏み跡もなく迷いやすいので初心者は避けたいほうがよい。一寸南岳にここから派生する西尾線線上にある。三ツ塚を注田しても行けるが、ますますぐに距離感に向かてそのまま直登する。明神平の寺野神社に参ると、よい道になる。

このコースは雪の上に踏み跡があるだろう。たとえ新雪が積もり踏み跡が消えていても、はっきりした道なので心配ない。冬結れの樺木の中をほぼ平坦な道が続いている。やがてアノ林となり、タイコドウ谷の源頭付近から大きく左にカーブしてゆく。やや急峻になるが、それもわずかで初登の雄岳山頂(1406m)につく。

ここからの展望は抜群で、地図をひびけ、周囲の山々を向定してみよう。寒いときはゆつくりもできないが、一服して次の雄岳に向かう。一旦下って登り返すが、雄岳山頂は狭いので落ち着かない。ここからスリルある岩場を下る。特に雪のついた岩場は滑りやすいので足踏を確保しながら慎重に行進しよう。急峻な岩場の形もわずかで、またよい道になる。急坂を下ったり、平坦になったりしながらどんどん下る。やがて薄暗い松林の中を通る。テープや道標もあり、ほぼ一本道なので迷うことはないが、この松林に入る手前では尾根をまっすぐ行かないこと。よくテープを見てやや右の方向へ向かう。ここでコースは尾根をはずれて下っているの注意したい。

松林を抜ける2大又のバス停は近い。明神平を出発した野神神社へ降りつく。バス待合時間があればコーヒーでも飲んでゆつくり道で

う。冬の日はずれがかつてのことだろう。(ハコスタイム)

近鉄榛原駅(バス1時間20分) 大又(1時間30分) 林道終点(1時間20分) 明神平(1時間20分) 薊岳(1時間40分) 大又(地形図) 2万5千1:10万 昭文社「57大台ヶ原」

奈良交通バス(榛原営業所) 07458(2) 2201 明神平キャンパス(久米池石橋) 07464(3) 00399

軽アイゼンとヘッドランプを持参すること。

Advertisement for a mountain tour. Text includes: '山合 6527-01 滋賀県栗原郡東町下黒5 00749(45)2458 093-0701 05/555.016 05/555.016 16005(1260R) 5/27/2008 03344-4111/03 14005(1260R)'. It also features a small logo and some decorative elements.

嵐山冬暮色

小泉 誓 純

元号が変わって一ヶ月あまりが過ぎたころ、久しぶりに、京都北山と比叡を単独で訪ねてみた。もともとも、元号が変わったからといって、心遣いも変わってのことではなかった。一つの時代の終焉を深く感じてはいたが、

如古者であると同時に被害者でもある、とぼくには考えられる昭和天皇。その時代の中でも、最大の苦難の時代に生を受けたぼくは、元号が何に変わろうとも、昭和の前期と後という時代を決して忘れることなく、背負って生き続けるに違いない。「新人類」から見れば、「明治は遠くなりにけり」ところか、このぼくでさえ、「生ける化石」的存在と思うことも、多々ある。

暖冬であるにもかかわらず、予想していた

以上に積雪があった。それに伴って、スキーヤーもまた多かった。

山中でツェルトで二泊したのも、蓮葉山の頂上から、急斜面のほうを遡んで、華厳に滑降するスキーヤーを間近に眺め、またその鋭い音を聞きながら、リフトの機を下って行く、と、珍しくも、先を行く一人の登山者が見えた。そして追いついてみると、女性であった。風の中で声をかける。

「こんにちは。こんを所を歩いているのは、ぼくらだけのようですね。」
「こんにちは。平日だから、こんなにスキーヤーがいるとは思ってなかったんです。何だか場違いのようで、恥ずかしい気分です。」
「ぼんどですわね。……蓮葉山が目的だったんですか?」

「武家ヶ岳と蓮葉山です。」

「まさか武家から来たしてきたんじゃないでしょうかね。こんを時期に女峰一人で。」
「ハハハ、もちろんです。」
「ゴンドラの乗り場まで、彼女の姿に合わせて歩く。雪山の終極は、多くはないような足取りだった。

にぎやかで入道りの多い麓内の酒場で、アイゼン、スパッツ、ヤッケなどの装備をたく、セーラーを着替えてこちらを向いた彼女は、思っていたより若かった。二〇代の半ばあたりか。……赤糸の通じたセーラーがよく似合っていた。

「童貞が一致して、たご娘でビールとする。」
「キミは関西の人じゃないみたいだね。」
「はい。兵庫です。」
「では、今は関西に勤めているというわけ?」
「いいえ。長崎から来ました。」
「えーっ?長崎から来たの?……そうだったのか?。すごい情熱だね。」
「三〇〇名山をやっているんですから……。」
「それはまた、お楽しみというか、? 著者さんというか……? ところで、蓮葉山も三〇〇に入っているの?」
「はい。この辺りでは愛宕山や比叡山もです。」
「そりや知らなかったわね。もちろん、リス

トは何度も見たことがあるんだけど、最後のほうまで、じつくりと眺めてみる気がしないもんだから。」

小さなゴンドラにアベックで乗る。
「これから武家の方へ行くの?」
「いいえ。昨日登りました。……今日東京都市内のレディースホテルに泊まって、明日の新幹線で帰ろうと思ってるんですけど、その前に今日は、嵐山へ行ってみようかな、と思ってるんです。」

「嵐山へ……。はじめて?」
「いいえ。学生時代に、友だちと元徳や奈良や神戸に遊びに来たときに、一度行ったことがあるんです。でも、どう行けばいいのかわからず、ぼくも、その日は一日中遊んであんな。

「ぼくは大阪へ帰るんだけど、それじゃあ案内がてら、嵐山経由で帰るとしようか。大して遠回りでもないし、早く帰っても、用事があるわけじゃないしね。」
「ほんとはですか?、よかったア。あそこは河原で向かってくつて、ちふつと遊べるからもしれないけど、お昼にしようかと思ってるんです。」
「あそこまで行けば、そんなことしなくても、いくらでも店があるし、ぼくが知ってるいい

ステーキハウスもあるよ。」

「でも、食糧の残りがあから、もつたないと思ってる……。」

「言ってくれるじゃない、若いのに。」
「じゃあ、ぼくのほうもブランドアと食糧があるから、回廊でいっちょよき宴会どうにか?」

「お酒もあるんですけど、うれしい。」
「ハッハッハッ、さすが九州女だね。キミ、酒の話が出たとなんか、目の色が変わったぞ。」
「アハハッ、好きなのだけで、弱いんです。」
「強い弱いは相対的な問題だよ。強いがぼくより強いといふことも、あり得るんだからね。」

「アハハッ、まさか!」

この寒い時期の平日といふのに、嵐山には多くの人が遊びに来ている。

やはり最初にはビールのほうがいいということになって、缶ビールを仕入れ、水道をながしてポリタンクに水を詰めてから、藤樹の下に水を落とす。

さむ空の下とはいえ、山と比べればはるかにあたたかいし、相手を不足なし。さらに酒と熱い物を腹に入れてながらの小宴だから、申し分なしの気分だった。

「わたし、只今失業中なの。」

深刻味もなく、彼女はこやかに言った。

会社と上司に失望して、学校を出てから最近勤めていた会社を、残っていた同期の人たちと前後して辞めたという話。

「じゃあ、しぼしの嵐、存分に山へ行ける。」
「自分というわけだね。」
「しぼらくね。……今から再就職しても、どうせいいところには入れないだろうし、もうなれば、飲みも取りにくくなるだろうし……。」
「好きでない人と結婚すれば、それ以上に山へ行きにくくなるだろうし……。」
「息通ししたいという話です。」

「現は結婚のほうを望んでいるじゃないの?」

「そうなの。……今までに二度婚があった。一度は告白をしたことがあるんだけど……。」
「なせうそじつつかえなかつたら、聞きたいわね。」

「あつつかえなかなないんだけど……その人は、ある理由で行動している人で、近々に神戸へ転勤になると言っていた……母方のおばさんが持つて来たお説、わたしは二人だけで会おうと主張したの。そして会ったんだけど……その人の次の弟さんの結婚がすでに決まっていたので、順序として、一足先に結婚し



を取り去って、楫を振った。少し長めの髪が白首を身まわされて、セーターの前髪に別れて垂れた。

そのしぐさと、その結果としてのヘアースタイルに、ぼくはこのとき初めて、彼女が婦れもな、大人の女であることを感じた。

ストリートバーマのようだった。

やがてボートは、水中にいくつもの大きな岩のある所に来た。当然のことながら、岩の

間は急流となつてゐる。

ほとんどのボートは、ここで追い返されるか、チャレンジせずに戻って行く。

ぼくは、若者のように機り切つて声を出した。

「さあ行くぞ！」

急流にさかちかちかして、少しずつボートは進む。いくつかの岩の間をクリアしたが、あとわずかの所で止まつてしまつた。流速と進行速度が相殺されてしまつて、静止状態がしばらく続いた。

やがて力が尽きかけた時、おいしく左のオールが岩の底面にひかかつて、まともにパツクもできない状態となり、オールが抜けたとたん、流れはやや南向きのままの姿勢で、ボートはみるみるうちに下流に流されて、岸辺の水中の岩に座懸して止まつた。

彼女は「キヤーン」とか「こわーい」とか言つたが、ぼくもまた、トシをとつたものだと思はされた。

「今度は二人で飲んで清らう。手伝つてくれ。」

「もう、こわい。」

「流されたが、近くの岸まで泳がされるだけのことじゃないか。どつてつてことないよ。まあ橋へ座れ！」

ぼくは楽しんでゐるのに、彼女は、マジメに「こわがつてゐるようでもあつた。だが、」

「行けるかしら。わたしは腕力が無いのよ。」

「言ひながら流れて座つた。」

「さあ行くぞ！」

「はいッ！」

今度はうまくクリアして、漕ぎだつた。

「やつたあ！」

彼女は嬉しそうに、大きな声を出した。その前後から、つまり舟首の方向から、女性が生かす音がした。

「さすが夫婦ですわね。イキがピッタリでしたね。」

振り返ると、先ほど難波をクリアして行つた女性二人組のボートからだつた。声のすは、舟首に座つてにこやかにこちらを見ている。毛糸の帽子と赤っぽい登山ジャケットのぼくのような姿が、彼女の判断を誤らせたようだ。

ぼくが振り返って彼女を返したあと、少し間をおいて、その女性は再び声をかけてきた。

「遅うんですかあ？…お見さんに目見えなしいし、あつ、今はやりの不倫ですかあ？」

（次号へつづく）

たにというのが、その人の動機で、その人は長男だけだ。二男が家を継ぐことになつてゐるにせよ、これという土着性を女性観も持つてないし……四年間松本の大学にいて、上高地へすら一度も行ったことがないんで……山登りは好きでなくても、自然美というものは何の感心も無い人なんて、人間の感覚が無いと願つたの。それと、腕力はあるという点を強調してはみたい。……おぼさんは大変な女だ。こんないい話をもつたない。しばらく休前にしてから待つから、もう一度よく考えなさい」と言つてなげ、母に頼んで断つてもらった。

「ホー、なかなか手きびしいね。だが気持ちには分かる、おぼさんは何か言つたのか？」

「特に何も言わなかつた。いやなら断つてあげる」と言つただけ。

「お父さんは？」

「父は、さういうことは何も言わない人なの。少なくとも道義的には。」

彼を持たないぼくには、父親の気持ちがよく分らないが、ぼくなら、「どんな男に見えての結婚なのか？」くらいは訊けそうな気がする。

「そうかあ……じゃあ自分が見つけるんだなア、いい人も、つき合つてゐる人はいるんだらう。」

「うう。」

「いません。……いたことあるけど……」

彼女は何のつてよう欲めさし、教習所では、腰に巻くように話つた。

「再就職するとしたら、何が特技があるの？」

「アハハ、それがさうと何も無いの。」

「特技というほどではなくても、何かできることはあるだらう？」

「できることね……リゾート地の酒店で、二ヶ月くらいバイトをしたことはあるけど、学生時代に、だから山小屋なら勤まるかもしれない。」

「いや、さういうことじゃなく、事務的なことか、技術的なことだ。」

「そうね……計算は駄目だし……ワープロや、コンピュータの端末機はたいてはたいては……」

「何かちつとした資格とか免許とかは？」

「英検の二級と行政書士と……あとは車の免許くらい……かな。」

「じゃあ一般的な事務職というところだなあ。それとも、二種を取つてタクシーの運転手なんかはどうだ？キミなる似合いそうだが。」

「アハハハ、わたし、そんなにしつかりしているように見えませんが、とてもとても、おまじやないわ。」

「ハハハ、もちろんこれは冗談だけれど、」

ぼくは少し気分であつた。ぼくは、ぼくは「久しぶりにボートに乗りたくなつたな」とつておやいな。

「わたしも早く行くぞ！」

彼女はほしやいで立ちあがった。

船尾の少し下流に在るボート乗り場へ、おぼさんにサックと二つ預けて舟を離れる。

「一時間で待たせざる範囲で、できれば上流まで行ってきようか？」

「はい。わたしも途中で交代しますから。」

「漕いだことがあるの？」

「はい。学校が戻らなつたから、ワンゲル部の会場のときに、富士五湖で何回か……」

「それは頼もしいな。じゃあこつちはトシだし、少々酔つてるし、頼むかもしれないよ。」

「はい、どうぞ。」

「そんなことはさせないよ。悪いたりとはいへ、男のはしくれたら——」と内心で思ひながら、ボートの左ない右岸へ徐々に寄りつづ、上流へ向かう。

漕がんでゐるボートの乗り手は、ぼくほど若いカワブルで、女性だけのボートも少しあつたが、男性だけののは全くなかった。

彼女は、首のうしろで髪を束ねていたひも

から山頂へ。暑さ少減。みずひきみせせば。秋の植物に誘われておらおら歩きまわりました。興法寺でキンモクセイの咲いているのであいました。今年のキンモクセイはかおりがしないよ」と、植物好きの友人から聞いていたので、嗅いでみたら、やはりかおりがしなかった。今年の夏の天気ぐあいモクセイにあわなかつたせいでしょうか。

明るい、あんず色の花、芳香はひとまわ鮮烈。中国では一番のジンチョウゲは七里香、秋のキンモクセイは九里香」というそうです。この芳香をお酒が楽しめるらと、数年前、においの強い花をホワイトリカーに漬けた日のことを思い出しました。

風がキンモクセイのかおりを運んでくると、秋たけなわ、この秋も夏以来の変な天気が続くのでしようか。 (宗水 恵)

10月24日の例会大尾山から仰木峠に参加しました。親切バスで総勢約客が大原へ。未だ院の近くで占碑、紹介があつて、そのあと全員で準備体操。

北山時雨が降ってきたが、これはこの時雨の多いようなものなので気にしない。リグレーの先導よろしく、大尾山を目標として出発。音無ノ池を自走、獅子橋の続く近所からジグザグ道。更に急な直登を辿り大尾山(688.1m)に登り着く。その北の鉄線広場へは予定通りの11時50分に着く。小雨も上り、薄暗らしい北山の景色を眺めつつ、あちこちで話の花が咲く楽しい昼食後、1時間があつたという間に過ぎる。

後半は色とりどりの落ち葉を敷きつめた尾根道で、足の揃った砲台のメンバーは休むに行く。静かな小野山(670.0m)の山頂で小休の後仰木峠へ向かう。仰木峠へは予定より早く着いたようで、峠上の展望所で琵琶湖の大パノラマを見ながらロングの休憩。おやつを交換したり、写真撮影が合つたりと、暫んたの和気藹々大きく広がって、盛り上がりつつ。仰木峠から50分ほどで大原へ。大原からはお迎えのバスに乗り、16時30分頃、出町筋にて解散。経路の有志によるワリカン反省会共々とても楽しい一日でした。

た。お世話になりました皆さん、ありがたうございました。 (前中 穂)

朽木の山というと、山頂れたベチランの行く山と思つていたのですが、本誌15号(熊野の「巨岩岳三峰探訪」)の山行記で、私たちが中野半太郎にも登れることを知り、10月25日、空無雲を気にしながら、出かけをことにしました。安曇川からのバスに乗車は、雨生で降りる時には我々二人だけ、雨も降り出して心細くなるが、行ける所まで行つてみようと思つた。登つて行く程に、樹齢数百年はあるかと思われる杉の巨木やナナ等の自然林の頂上に着いてしまふ。しかし、雨に加え風も出てきたので、急ぎ、中流、白鳥岳を経て村井のバス停に向かう。下り始めてしばらくした時、何だか明るくなったかと思ふ間もなく、両翼が切れ青空が出てきた。そして陽がサッと刺すと、雨に洗われ陽に輝く木の間に、武茶ヶ岳から続く比良の稜線が目に飛び込んできた。あまりにも突然の信じ

尾根、空々岳、妙高山とつりの山の山小屋 清四郎小屋 ほんもの手行をばと元宿は 橋 〒945 新潟県北陸道 0255-791-3311 または 0255-791-3311 0255-791-3311	ナガサキロッジ 〒949-24 新潟県中越前郡 妙高温泉町妙高平湯 0255-551-2261	高山の花 温泉の花 妙高山と火打山 百名山と二つ登れる山小屋 黒沢池ヒュッテ 〒949-21 新潟県中越前郡 池の平温泉 0255-86-2261 0255-86-2261	体感良人浴も歓迎 10名以上マイクログラスで送迎 箱根温泉温泉 福島館 〒250-06 静岡県裾野市下 箱根町山石原139 04460-419041
--	--	--	--

られない様な景色に、何だか特々しいものを感じるような気持ちでしは、見とれてしまいました。

この静かで美しい山に道を聞き整備して下さった方々に感謝しつつ、迷わずなく村井へ下りました。

山行 仰木峠

十月山行報告

2日、山々中流(2万5千)環谷貯水池へ。

4日、「大和遊歩会」例会、信貴山へ。22名参加。

9日、伏見公民館「朝野アサト」下ア教室、瑞穂へ。12名参加。

10日、「京のつどい」例会、山々遊歩会「長尾山」へ。23名。

12日、山々大生(同)「大生」へ。19名。

15日、「平明会」例会、信貴山へ。56名。

23日、山々前線(同)「大和柏木」へ。23名。

23日、伏見公民館「アサト」下ア教室「大和」原案内、40名。

25、26日、小辺路を歩く「水々」峠、北今西、ホテルのせ川、大原、伯耆、西へ。11名参加。

28日、山々川(同)「北今西」へ。11名参加。

31日、山々川(同)「北今西」へ。11名参加。

(下田 博)

山行 仰木峠

一昨年11月初旬、山の友人へ打見山から後山、小女郎峠へと向かった。

山頂はすでに冬景色の如き寒々とした針葉樹であったが、ふもとには素晴らしい紅葉で足を踏みとどめざるを得ない程であった。

蘆葉山では来るべくスキーシーズンの準備が、桂葉を刈りとるセミナーの音で遅々しかつたが、小女郎峠は冬の到来を待っているかのように静かに山の形を映している。蘆葉山から眼下に広がる蘆葉湖が晩秋の静寂を表現し、蘆葉のヨツトが夏の忘れ物のように佇止していた。

ふと山頂を移すと白い一本の雪が立ち上がり落ち葉も美しい。一週間の山行を

深めていた。 (前中 穂)

吉田 誠可
くらがりを登りつめたり森雨ふる
奈良道 死
春雨に街道ゆく人も風来坊
小西 政博
初冬の山野に訪ゆるつくしかな
山本 伸司
風吹きて花弁になやな葉おかな
三浦 宏尚
春の風桜吹雪の山の道
山本 英樹
吹く風は花だというのにまた寒
大岡 唯祐
篠間山に凍立ちたれど
我に期こえぬ春のうぶ声
平山 肇一
船着近づき見ればくらがりに
霧雲まつれてなお白
くらがりの山登りつわきみれば
奈良の盆地は眼下に広し
霧ふかしくらがりおぼろかな
吉原の道はまだ続くかな
核浦 光彦
霧深きつかればあれどのほりゆく
くらがりとうづいてこえるやら

長野県小市市高野温泉 〒338-4 0266-7-2512000	日野 尾 旅館 〒381-04 長野県上井郡 山ノ内町湯田中野温泉地区 0266-9-3313578	湯田中温泉(温泉) 〒381-04 長野県上井郡 山ノ内町湯田中野温泉地区 0266-9-3313578	湯田中温泉(温泉) 〒381-04 長野県上井郡 山ノ内町湯田中野温泉地区 0266-9-3313578
--	---	---	---

山行計画

ハイキングクラブ関係

このページの山行計画には、「会員に限らず」と特記してある場合は会員外の方でも参加できます。一人ずつ往復ハガキに記入例によって出発の7日前までに到着するようにならなければならない。「費用」のほかに参加名簿代その他の資料代を頂くことがあります。山行申し込み後参加できなくなった場合は急いで係に連絡してください。体調が悪い方、幼児と帯び入りはお断りします。例会の参加者全員に傷害保険がかけられています。出発時の保険料(日額50円)を各自主持の現金または2日前に1000円を支出してください。(AUIの保険会社に加入)

終了・送還費(引取手料) 10000円
 入段保険金 50000円
 運送保険金 10000円

保険の対象は集合時から解散時まで。事故があった場合は解散時まで係に申し出て下さい。この保険に該当しないものは次の通りです。
 ①ピッケル・6本爪以上のアイゼン・ザイル・ハンマー・ツカンを持参することを明記した山行。
 ②スキー・使用の山行。
 ③沢・岩・氷壁などは目的とした山行。
 ④前泊場所内の事故(詳細は係まで)

(記入例) (往復ハガキを使用)

山行き申込み書

山行 〇〇山
 期日 〇月〇日
 住所 〒
 電話番号
 氏名
 会員番号 (会員でない方は会員外記入)
 生年月日
 緊急時の連絡先

返信用ハガキの宛て名欄にご自分の住所氏名を記入してください。

支那北山歩き25
 天ヶ岳・天王岳(二段向き)
 期日 1月9日(日)日帰り
 集合 京阪出町畑駅バス乗り場
 コース 出町畑駅―大原―焼杉山―分校―大ヶ岳―天王岳―出町畑駅
 費用 15000円(交通費別)
 地図 昭文社「17支那北山」
 申込み 昭文社「17支那北山」
 〒610-0001 城陽市寺田大井10の10 村田まで
 雨があれこれいいますが、大原からロングコースとなりますが冬の北山歩きに最適なコースです。小雨決行

鈴鹿・養蜂山(二段向き)
 期日 1月15日(日)日帰り
 集合 JRR陸田線陸田駅9時
 (マイカーの人も開駅後9時までには集合して下さい。駐車場あり)
 コース 開駅―関口―養蜂山―丸大(釜山口)―養蜂山―飯吉山―関口―開駅
 費用 保険代50円(集合地まで)

門谷ノ沢ノ池ノ山
 宇多野仁村寺前崩落
 費用 約15000円(交通費別)
 地図 昭文社「17支那北山」
 ①西山 ②村田賢蔵
 〒610-0001 城陽市寺田大井10の10 村田まで
 畠山内谷の池をめぐりながら冬の沢ノ池を訪れる。小雨決行

日本最高位の温泉
 (2400m)
 立山・宝冠平
 みくりが池温泉
 〒930 富山市五福大広町
 電話 0764410434

ハイキングに、スキーに、
 避暑に、石の湯ロジン
 パス 湯の宮温泉(床下町)
 〒258-9144 2421
 東京本社・東京新大塚区新橋5-1-20(5階)
 湯の宮温泉(TEL) 03-3341-0211

白馬フランチエ
 〒399-93
 長野県北安曇郡白馬村いわたけ
 電話 0266-172-4452

館内より日本カモシカ毎20頭以上と、毛アの雪形観察、北ア全体の大影響の絶、雪は山菜等、奥野温泉・養蜂山、
 あるあるすいん 満山荘
 〒398-2 長野県上高井郡高山村山田牧場・奥山田温泉
 電話 0266-2142-2627

八ヶ岳北麓の中心地
 59年秋新築完成全館温泉
 本館の香のうまみ空室温泉大温泉
 オールレングラス
 1泊2食付 60000円
 〒358-102 小平温泉
 電話 0266-672-1279

地図 昭文社「17支那北山」
 係 ①稲垣逸夫 ②尾崎英五
 ③新崎幸男
 申込み 〒590-0001 城陽市寺田大井10の10 村田まで
 久保町2066番地3番地まで

雑木山の山や野沢の清流の絶景、野沢の絶景を堪能できるコースが、千本化する雲の流れ、ついでやけやけを流すという、そこから名付けられた山です。小雨決行

高尾
 明神峠から麓まで(二段向き)
 期日 1月23日(日)日帰り
 集合 千本松原駅前9時
 コース 横須賀―初音―入又―横須賀(野沢)時刻表参照
 費用 約5000円(交通費別)
 地図 昭文社「17支那北山」
 申込み 〒161-0001 城陽市寺田大井10の10 村田まで
 今時のコースガイド P.22に頼りてお楽しみください。下山時雨あややなくなりません。怪アイゼ

〒2万5千1大和郡田原
 係 ①松本正一
 申込み 〒580-0001 津市河内2の2の22 坂本まで
 平石峠から歴史と文化の山、二上山に登り、市街に遊ぶ。お天よく眺められやすい。雨天中止

若湯山(二段向き)
 期日 2月20日(日)日帰り
 集合 南海難波駅高野線ホーム9時
 コース 難波駅―紀伊時崎―熊が登―根古草―南葛城―分岐―若湯山―根古草―大見六―助―越石谷―大見六―難波駅
 費用 約15000円(交通費別)
 地図 昭文社「53金剛山」岩朝山
 申込み 昭文社「53金剛山」岩朝山
 〒610-0001 城陽市寺田大井10の10 村田まで
 冬折れの大展望を期待して若湯山を歩く。下山は猿谷を大見六へ。小雨決行

門谷ノ沢ノ池ノ山
 宇多野仁村寺前崩落
 費用 約15000円(交通費別)
 地図 昭文社「17支那北山」
 ①西山 ②村田賢蔵
 〒610-0001 城陽市寺田大井10の10 村田まで
 畠山内谷の池をめぐりながら冬の沢ノ池を訪れる。小雨決行

秋 小グループ
 白馬の自然案内します
 白馬ファミリーペンション
 〒399-9193 長野県北安曇郡白馬村八力和田野
 電話 0266-172-5935

八ヶ岳北麓の中心地
 59年秋新築完成全館温泉
 本館の香のうまみ空室温泉大温泉
 オールレングラス
 1泊2食付 60000円
 〒358-102 小平温泉
 電話 0266-672-1279

山行報告

ハイキングクラブ関西

9月23日(祝) 雨
宇賀溪村車庫より、
45-尾ヶ岳至尾ヶ岳
山口10・10-魚止
滝10・15-五階滝
10・40-長尾滝11・20(登巻)11・
40-土曾瀧(登巻)13・30(解散)
50-石神分岐12・05-砂山12・
40-土曾瀧(登巻)13・30(解散)
あいにくの雨で、滝ヶ岳を砂山
に要した。その代り、たつぷり
と宇賀溪麓ツアーを楽しむことが
できた。

(参加者) 平 龍一 平 幸子
岡 寛子 芥 秀夫 鈴木 庸
迫田昭博 島元茂花 東條崇正
坂藤 誠 吉田 薫 石田真由美
山下孝也 塚田修次 原田克子
若松 登 竹内正三 波多野博子
櫻原麻一 新井善代 宇高水次郎
西村義朗 西村陽子 山崎加奈子
長沢孝子 松林立美 (計27名)
◎尾ヶ岳至五

一時12・25-35-山崎13・05
30-13時-水吉地蔵14・45
15・00-近鉄原山15・00(解
散)
あれが後援者、あの白く光るの
が明石大橋の橋脚、関西新交遊が
見える。車下広がる大阪平野の
眺望が素晴らしい。
(参加者) 内山 亨 内山弘子
内山克彦 内山保子 武田勝彦
平塚英子 眞田久子 新田信子
大木久子 相沢文子 千葉孝枝子
堀田 隆 柴とも子 中島 利明
◎松水恵一 (計15名)

三頭山
9月20日(日) 甲北
京都駅8・02発-八木駅9・05
19・20-三頭山9・35-50-吉見
峠10・25-三頭山11・00(登巻)
12・30-皇崎13・30-14・00-ド
ンドン峠14・15-38発-八木駅
15・02(解散) 15・10発-京都駅
15・50
のんびりコースで、休憩や昼食
時間が長かった。三頭山から皇崎
はしっかりと楽しめた。
(参加者) 三若 明 西岡雄夫
深谷正史 新井善代 戸田美津枝

福本芳雄 石田敬孝 林 千賀子
林 正 岩崎邦夫 藤田俊生
布田徳英 久保田順一
前田幸子 中家弘治 井上恵美子
鈴木登雄 三木茂子 林 志智子
横井善子 前田政雄 山崎多恵子
内田雅孝 宮部信子 竹田利夫
松下 武 西村泰治 久保田英次
坂口良彦 坂口真子 岡田正治
田中均子 辻 和子 中野加代子
井上保三 田中卓子 宇高水次郎
藤原弘子 松林立美 尾野正弘
前田洋郎 宮内幸香 山本 部
◎山崎義治 ◎村田昭博
(計46名)

神山・八幡ヶ岳
10月9日(日) 11月1日 2泊3日
(9日) 晴れ 近鉄上町駅13・
00(集合) 13・15上三河川14・
30-三ヶ所滝谷15・00-清川温
泉16・50(朝の国産八幡ヶ岳道
(10日) 晴れ 清川? 10上三河
川合? 25-35-四郎山8・40-
新屋10・25-40-ナベノ耳11・
30(集合) 12・20-御平13・15-35
15・50-16・00-神山16・30(解
散) 山小屋泊

ハイキング・キャンプに
参加申込書
朝陽亭 あさけ茶屋
〒500-112
三重県三津市野町十平
電話 0593-51-3117・286

3日間とも快晴の下、さわやか
な秋の大森を楽しんだ。山道付近
の紅葉はもうと見頃で、紅葉街
とのコントラストが素晴らしい。
た。夜は湖天の風情に感動した。
(参加者) 三若 明 小泉 孝
恒任正晴 稲田茂男 田中昭男
奥村敏治 京井 正 前田幸子
塚本忠次 山崎勝治 山崎多恵子
渡辺達郎 長比保夫 安田文美江
宮内幸香 中島豊良 松本俊子
◎尾ヶ岳至五 (計20名)

10月24日(日) 雨

予定通り志賀駅まで行ったが、
小雨模様。一応ロープウェイで打
見山山上駅まで登るも回廊が見込
こめずスケッチは中止して解散し
た。下山された人もあったが、急
ぎ個人山行を決定。10名で夫婦
連手前の小屋に到着してスケッチ
の話しはじけ花がさく。そのうち
の8名で宮羽池(長池)行き皇崎
日が射し始める。3名は大滝流に
戻りスケッチされたが、残る3名
は白滝山を往復して木戸峠・クロ
ノノハゲ・天狗杉を通り、とっさ
り暮れた18時10分、志賀村到着。
中止の原因のため、参加者の氏名
は省略します。 (松田誠志)

大尾山から仰木峠
10月23日(日) 曇一時雨
出町朝駅8・30-大原バスターミ
ナル9・00-吉里ノ滝9・45-50
大尾山10・35(登巻)11・50-
小野山12・55-13・05-仰木峠13・
25-14・00-大原15・00-45-出
町朝駅16・20(解散)

月に入ってから。
(参加者) 深谷正史 野間耕夫
宮坂登孝 大田久子 前中 敏
山村山枝 栗岡克子 原田修英
原田克子 河野英夫 田中真子
下山 正 河野英夫 林 千賀子
林 正 稲田昭子 奥田千賀子
松下 武 西村泰治 久保田英次
坂口良彦 坂口真子 林 志智子
澤 久代 妻田信子 井上恵美子
小島博徳 高橋 寛 岡崎なほ乃
沖秋一郎 仲野信子 佐々木文江
中家弘治 前田信子 牧野伊佐子
多田正信 多田幸子 山崎多恵子
竹田利夫 山川智子 中村英雄
連水秀英 山本 部 中村恵美子
宮部信子 船本孝雄 小島フジ子
新井善代 前田政雄 西田小百合
西田 寛 林 弘毅 星野止敏
寺川宗明 則定保夫 吉田道一
田尻文昭 日原雅治 中井ひろみ
藤田幸子 ◎山崎義治
◎村田昭博 (計46名)

このページの山行報告を通じて
正しい山歩きを、たのしい山歩聞
たると味わいませんか。リーダー
(後) はすべて無償の奉仕で、各
自で切符を買い某代を払い、宿泊
料もすべてワリカンです。
新ハイキングクラブ関西の活動
はまだ始まったばかりです。
あなたも新ハイキングクラブ関
西に入会しての新しいお仲間にな
りませんか。会費には毎月「新ハ
イキング・別冊関西の山」(定価6
号)をお届けします。会費はこの
ページの山行報告に参加できます。
入会金 500円(ハンズ代)
年会費 2500円(送料別)
新ハイキングクラブ関西への入
会申し込みはこの詳細に準ずる方
格用紙をご利用下さい。返却先か
ら送本せよと明示下さい。
尚、定期購読を御希望される方
を会員になって頂きますと、会号
随天にお手元が届きますので便利
です。
◎新入会費紹介(1年間まで)
林 正博 神 博代 松本俊子
西村昭博 奥村敏治 上田正三
西 信夫 西 敏子 久保田昭子
狩野重彦 狩野英子 吉沢恵子
吉沢栄一 林 良一 寺川宗明
渡辺敏彦 宮内良夫 角田礼子

高田敬後 杉山久子 松江信行
真木康夫 河村政嗣 河村仁子
若原勇男 高橋敏子 小野原敏郎
北川山枝 藤野泰子 小林はなえ
森脇雅彦 下村孝子 野田マツコ
美村孝治 田中三枝 伊原千代子
若藤孝子 市川智子 栗岡克子
吉村時子 澤崎典子 牧野伊佐子
真実 修 長尾朋美 佐々木文江
西川忠雄 島元茂花 林 志智子
乙野昭雄 野口 修 野田多恵子
西村昭博 山田敬孝 山田あかり
森 保幸 中山義治 中山幸子
真木文男 藤山 誠 武 昌比呂
重藤博男 廣金昌志 福田尚平
平野英子 高岡敏子 松原利三郎
川上久堅 泉 曲秀 奥田英次
久坂真夫 妹尾善行 吉原 清
山口敬雄 吉田 道 吉原マサツ
相田昭博 林 正 北沢登喜彦
川添 毅 川添幸子 下村あさ子
中村博枝 林 一 栗原美津枝
【閉止】15時 藤原 46ページに
段々「目」二階展望台付近と書き
添えられている。藤原が「とら」
は「せ」であらわれている。藤原が
が正しい。 (編集長)